

法人本部事業報告書

1 法人の目的事業

この法人は、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援するために、次の社会福祉事業を行うことを目的とする。

<社会福祉事業>

(1) 第一種社会福祉事業

(イ) 特別養護老人ホームの経営 南風・第二南風・花菜風

(2) 二種社会福祉事業

(イ) 老人デイサービスセンターの経営 デイサービスセンター南風
第2 デイサービスセンター南風

(ロ) 老人短期入所事業の経営 短期入所生活介護南風

<公益を目的とする事業>

(1) 居宅介護支援の事業 居宅介護支援事業所南風

(2) 地域包括支援センターの事業 地域包括支援センター三和

(3) 介護予防支援の事業

<地域における公益な取組>

(1) 浜松市学習支援事業受託事業「寺子屋しんづ」の運営（民児協との協働）

(2) 介護予防教室「^{たのしんで}楽心出」の運営支援、体操の指導及び会場提供

(3) 南風バンドによる出前講演と音楽、地域住民に対する福祉教育

(4) 実習生の受入れ（地域住民に対する福祉教育）

(5) 講師派遣

2 理事会・評議員会の開催

令和5年度における法人の業務を審議・決定するために、次のとおり評議員会及び理事会を開催した。

評議員・評議員会 法人運営に係る重要事項の議決機関

理事・理事会 法人の業務執行の決定機関

監事 理事の職務執行及び法人の財産状況を監査する機関

<理事会>

第1回理事会

(1) 開催日 令和6年5月29日(水)

(2) 出席者 理事5名、監事2名

(3) 議題

第1号報告 理事長の職務執行状況報告について

第2号報告 新評議員決定の報告について

- 第1号議案 令和5年度事業報告及び令和5年度計算関係書類並びに財産目録の承認について
- 第2号議案 南風の太陽光発電等設備工事及び外壁等補修工事の入札について
- 第3号議案 エームサービス(株)との契約について
- 第4号議案 特別養護老人ホーム南風施設長の選任について
- 第5号議案 特別養護老人ホーム第二南風及び花菜風施設長の選任について
- 第6号議案 事務長の選任について
- 第7号議案 次年度業務委託契約の変更について
- 第8号議案 定時評議員会の召集について

第2回理事会 (決議の省略)

(1)開催日 令和6年9月20日(金)

(2)議題

- 第1号議案 就業規則の一部変更について
- 第2号議案 ほなみ会奨学金制度新設について
- 第3号議案 定款の一部変更について
- 第4号議案 臨時評議員会の開催について (決議の省略)

第3回理事会

(1)開催日 令和6年12月10日(火)

(2)出席者 理事7名、監事2名

(3)議題

- 第1号報告 理事長の職務執行状況の報告
- 第2号報告 令和6年度社会福祉施設等の指導監査について
- 第3号報告 奨学金制度新設の取りやめについて
- 第4号報告 令和6年度事業の中間報告について
- 第1号議案 今期の設備整備事業について
- 第2号議案 令和6年度第1次補正収支予算について
- 第3号議案 定款の一部改正について
- 第4号議案 就業規則の一部改正について
- 第5号議案 令和7年度業務委託契約について
- 第6号議案 借地借家の次年度契約更新について
- 第7号議案 嘱託医契約書等の業務委託契約更新について
- 第8号議案 臨時評議員会の召集について

第4回理事会

(1)開催日 令和7年3月4日(水)

(2)出席者 理事7名 監事2名

(3)議題

- 第1号報告 理事長の職務執行状況の報告
- 第2号報告 令和6年度社会福祉施設等の指導監査の結果について
- 第1号議案 令和6年度第2次補正収支予算について
- 第2号議案 令和7年度事業計画について
- 第3号議案 令和7年度資金収支予算について
- 第4号議案 令和7年度設備事業計画について
- 第5号議案 就業規則の改定について
- 第6号議案 特別養護老人ホーム南風・第二南風嘱託医の変更について
- 第7号議案 臨時評議員会の招集について
- 第8号議案 辞任に伴う評議員選任・解任委員会の開催について

第5回理事会（決議の省略）

(1)開催日 令和7年3月17日（金）

(2)議題

第1号議案 就業規則の改定について

<評議員会>

第1回定時評議員会

(1)開催日 令和6年6月14日(金)

(2)出席者 評議員8名 監事2名

(3)議題

第1号報告 新評議員決定の報告について

第2号報告 理事長の職務執行状況について

第3号報告 令和5年度事業報告について

第1号議案 令和5年度計算書類及び財産目録の承認について

第2号議案 南風の太陽光発電等設備工事及び外壁等補修工事の入札について

第3号議案 エームサービス(株)との契約について

第4号議案 特別養護老人ホーム南風施設長の選任について

第5号議案 特別養護老人ホーム第二南風及び花菜風施設長の選任について

第6号議案 事務長の選任について

第7号議案 次年度業務委託契約の変更について

その他事項 南風の大規模修繕(LED化)の際にあわせて行う介護ロボット・ICTの導入に関する進捗状況

第2回評議員会（決議の省略） ※全員の同意とならず不成立（体調不良）

(1)開催日 令和6年9月27日(金)

(2)決議事項

第1号議案 就業規則の一部変更について

第2号議案 ほなみ会奨学金制度新設について

第3号議案 定款の一部変更について

第3回評議員会

(3)開催日 令和6年12月19日(木)

(4)出席者 評議員5名 監事2名

(5)決議事項

第1号報告 理事長の職務執行状況の報告

第2号報告 令和6年度社会福祉施設等の指導監査結果について

第3号報告 奨学金制度新設の取り止めについて

第4号報告 令和6年度事業の中間報告について

第1号議案 今期の設備整備事業について

第2号議案 令和6年度第1次補正収支予算の承認について

第3号議案 定款の一部改正について

第4号議案 就業規則の一部改正について

第5号議案 令和7年度業務委託契約について

第6号議案 借地の次年度更新について

第7号議案 嘱託医の業務委託契約の更新について

第4回評議員会

(1)開催日 令和7年3月19日(木)

(2)出席者 評議員7名 監事2名

(3)議題

第1号報告 理事長の職務執行状況報告について

第2号報告 令和6年度社会福祉施設等の指導監査の結果について

第1号議案 令和6年度第2次補正収支予算について

第2号議案 令和7年度事業計画について

第3号議案 令和7年度資金収支予算について

第4号議案 令和7年度設備事業計画について

第5号議案 就業規則の改定について

第5号議案 辞任に伴う評議員候補について

2 入職者・退職者の状況（法人全体）

	採用者数（人）			離職者数（人）		
	正職員	契約職員	合計	正職員	契約職員	合計
介護職員	15(南・第二・花)	5(第二・デ・2デ)	20	12(南・第二・花・2デ)	7(南・第二・花)	19
看護職員	1(第二)	1(花)	2		3(南・花・2デ)	3
機能訓練指導員				1(デイ)		1

生活相談員						
介護支援専門員					1(居)	1
栄養士	2(第二)		2			
事務員		1(南)	1			
その他		5(南・第二・花・テ)	5		3(第二・デイ)	3
合計	18	12	30	13	14	27

3 年次有給休暇平均取得日数（法人全体）

事業所名		南風			第二南風		
区分	種類	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率
介護職員	正規	318	217.5	68	275	196	71
	契約	112	79.5	71	126	105.5	84
看護職員	正規	74	57	77	50	32	64
	契約	23	23	100	0	0	0
その他	正規	132	107.5	81	150	87.5	58
	契約	115	76.5	67	112	73	65
事業所		花菜風			デイサービス		
区分	種類	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率
介護職員	正規	161	123	76	0	0	0
	契約	60	54	90	228	206	90
看護職員	正規	32	20	63	40	38	95
	契約	0	0	0	20	19.5	98
その他	正規	40	26.5	66	58	53.5	92
	契約	15	8	53	31	29.5	95
事業所		第2 デイサービス			居宅介護支援		
区分	種類	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率
介護職員	正規	0	0	0			
	契約	175	144	82			
看護職員	正規						
	契約	40	38	95			
その他	正規	80	70.5	88	136	84	62
	契約	20	20	100	10	7	70

事業所		包括支援			全体		
区分	種類	付与日数	取得日数	取得率	付与日数	取得日数	取得率
介護職員	正規				754	536.5	71
	契約				701	589	84
看護職員	正規				196	147	75
	契約				83	80.5	97
その他	正規	104	81.5	78	700	511	73
	契約				303	214	71

4. 残業時間年間統計

		南風					第二南風				
職種	種類	年合計	人数	月平均	最大	月平均	年合計	人数	月平均	最大	月平均
介護職員	正規	1,277.2	25	4.2	169.0	14.0	1,634.5	24	5.6	187.5	15.6
	契約	134.5	12	0.9	39.0	3.2	175.5	15	0.9	54.2	4.5
看護職員	正規	296.2	3	8.2	166.7	13.9	295.0	3	8.1	133.7	11.1
	契約	10.7	3	0.3	7.5	1.2	0.0	0	0	0	0
相談員	正規	144.7	1	12.0	144.7	12.0	60.0	1	20.0	60.0	20.0
機能訓練	正規	94.0	2	3.9	68.2	5.6	10.5	1	0.8	10.5	0.8
栄養士	正規	101.0	1	8.4	101.0	8.4	27.5	2	1.1	23.2	1.9
事務	正規	54.7	2	2.2	45.7	3.8	0	0	0	0	0
		花菜風									
職種	種類	合計	人数	月平均	最大	月平均					
介護職員	正規	737.7	14	4.3	132.7	11.0					
	契約	10.0	6	0.1	3.7	1.8					
看護職員	正規	263.7	2	10.9	162.0	13.5					
	契約	2	2	0.5	2.0	1.0					
相談員	正規	211.2	1	17.6	211.2	17.6					
機能訓練	正規	82.7	1	6.9	82.7	6.9					
		デイ					第2デイ				
職種	種類	合計	人数	月平均	最大	月平均	合計	人数	月平均	最大	月平均
介護職員	契約	178.5	15	0.9	29.2	2.4	106.5	11	0.8	15.5	1.2
看護職員	正規	130.0	2	5.4	61.7	5.1	0	0	0	0	0
	契約	23.2	1	1.9	23.2	1.9	84.0	3	2.3	54.0	4.5
相談員	正規	120.0	1	10.0	120.0	10.0	516.2	3	14.3	361.2	30.1

機能訓練	正規	119.2	2	4.9	119.2	9.9	154.5	2	6.4	78.7	6.5
	契約	0	0	0	0	0	54.2	1	4.5	54.2	4.5
居宅						包括					
職種	種類	合計	人数	月平均	最大	月平均	合計	人数	月平均	最大	月平均
ケアマネ	正規	268.5	6	3.7	113.5	9.4	141.2	5	2.3	46	3.8
	契約	43.2	2	1.8	43.2	3.6	0	0	0	0	0
事務他	正規	124.0	1	10.3	124.0	10.3	0	0	0	0	0

5 育児休業取得者の割合

- (1) 令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間に在職中に出産した女性職員は居りませんでした。
- (2) 令和5年度に出産し育児休業を取得していた職員2名の内1名が復職しています。

6 労働災害の発生状況

- 令和6年度は腰痛・転倒などの「動作の反動・無理な動作」により、受診1件、休業3日以内0件、同4日以上1件、新型コロナウイルス関連2件の労働災害が発生しました。

7 寄附の状況

(1) 寄付金

受入日	寄附者氏名	種類	金額	使途目的
9/4	鈴木陽子	寄付金	100,000円	法人

(2) 寄附物品

受入日	寄附者氏名	品目	使途目的
11/20	(株)アルファコンサルティング	寄附物品	車椅子1台

8 その他（浜松市学習支援事業業務の状況）

令和6年度において、新津地区民生委員児童委員協議会及び学習支援員として活動して下さる高校生や社会人の方々と協働して実施した「寺子屋しんづ」の活動状況は、次のとおりです。

令和6年度の新しい取り組みとしては、中学3年生を対象に8月と11月に静岡県統一模試の受験支援をおこないました。なお、高校受験をした2人は両名とも希望校に合格しました。

また、11月の倉松町「世代交流イベント」に小学生が参加し、焼き芋や焼きマシュマロを作り地域の大人の方々と一緒に楽しみました。センターに戻ってからも割箸鉄砲を作り遊びました。12月には新津地区社会福祉協議会の協力を得て折り紙で「干支の飾り物づくり」をおこないました。さらに学習の前にクリスマス会(軽食、ケーキとジュースで簡単な昼食を摂り、その後"すごろく" "カードゲーム")を開催しました。

- (1) 実施回数 42回(1回は台風のため中止)
- (2) 登録人数 25人(うち新規登録9名, 登録辞退者9名)
- (3) 学習支援ボランティア 41人延べ407人(支援管理者含む)
- (4) 運営ボランティア 延べ18人(新津地区民生委員児童委員)
- (5) その他イベントボランティア 4人
- (6) 参加状況

区分	登録人数		世帯区分別人数(再掲)		
	実人数	延参加人数	生活保護	ひとり親	その他
小学4年	3人	58人	0人	54人	4人
小学5年	6人	122人	0人	86人	36人
小学6年	2人	6人	0人	3人	3人
その他	5人	132人	0人	132人	0人
小計	16人	318人	0人	275人	43人
中学1年	4人	58人	0人	52人	6人
中学2年	3人	53人	0人	51人	2人
中学3年	2人	50人	0人	19人	31人
小計	9人	161人	0人	122人	39人
合計	25人	476人	0人	397人	82人

(世帯区分別人数(再掲)は、登録申出書の記載による。)

- * 令和7年度からは事業名称が「浜松市生活支援居場所事業」と変更され、その事業の目的を「将来の自立に必要な学びの基礎となる生活の安定を図り、貧困の連鎖を断ち切ることを目的とする。」として、これまでの学習支援及び相談対応に加えて①居場所づくり、②生活支援、③相談対応が事業として求められます。

令和6年度社会福祉法人ほなみ会施設事業報告

令和6年度は、特別養護老人ホーム南風における大規模修繕や見守り機器の導入、さらに法人として初めて特定技能実習生の受け入れを行うなど、大きな変化と挑戦の一年となった。職員の入退職も多い中で、サービスの質を維持・向上させるために現場が一丸となって課題に向き合い、創意工夫を重ねながら着実に歩みを進めてきた。変化を前向きに受け止め取り組んできたが、すべてが組織の成長に直結したとは言えず、取り組みにばらつきが見られた。今後は計画性と継続性を持った対応が課題となる。

《重点項目》

【職員育成・教育のシステム化】

- ・プリセプター制度の見直しを完了。
- ・法人が新たに作成した職責に基づく階層別研修体制の基盤を整備。

【組織力の強化】

- ・各事業所の状況に応じた継続的な実践を行ったが、職員の入退職が多く、組織力強化には課題が残った。
- ・特定技能実習生の受け入れに向け、研修・マニュアルの整備を実施。

【接遇】

- ・外部講師による研修など、接遇委員会を中心に多様な取り組みを実施。
- ・公益通報による立ち入り調査を受け、法人全体で高齢者虐待防止について検討を行った。

【介護保険改定への対応】

- ・「三位一体プラン」や24時間シートの確立に取り組み、ケアプランと各専門職の連携を強化。
- ・特養南風で見守り機器を中心としたICT導入を実施。

	南風	短期入所	第二南風	花菜風
稼働率	99.7%	77.2%	97.4%	99%
実稼働率(入院等)	97.6%		96.9%	98.9%
入職者	正規介護職 5名 契約事務員 1名		正規介護職 5名 契約介護職 3名 正規看護職 1名 管理栄養士 2名 介護補助 2名	正規介護職 3名 契約介護補助 1名
離職者	正規介護職 5名 契約介護職 1名 契約看護職 1名		正規介護職 3名 契約介護職 5名 契約介護補助 2名	正規介護職 2名 契約介護職 2名
取組み達成度平均	58.2% (昨年度比-2.7%)		64.1% (昨年度比+1.1%)	64.8% (昨年度比+10.7%)
苦情受付	7件(昨年度比+2)		2件(昨年度比±2)	0件(昨年度比±0)
行政報告事故	10件(昨年度比-1)		12件(昨年度比+7)	1件(昨年度比±0)

《全体行事》

行事名	月日	内容
浜松まつり凧場見学 練り慰問	5月4日	南風20周年記念凧見学のため倉松町の陣屋にて過ごす。夕方、倉松の練り等の慰問があり、お祭りの雰囲気を楽しむ
茶娘	5月8～13日	職員が茶娘の衣装を着て新茶を振る舞う
新津ふれあいフェスタ	6月16日	地域の行事で輪投げを楽しむ
敬老会	9月16日	職員による余興や敬老のお祝い品の贈呈
倉松町練り慰問	10月12日	倉松町秋祭りの屋台、大太鼓、練りを見学し祭りの雰囲気を楽しむ
秋祭り	11月3日	法人秋祭り。家族も参加しゲームや催し物、バザーを見学し地域との交流を楽しむ
クリスマスケーキ会	12月25日	クリスマスケーキのデコレーションを楽しむ
節分	2月3日	鬼にボーロを投げ、菓子撒きをする

《研修》

種類	日時	内容	講師（発表者）
法人勉強会	5月 集合開催	感染（手洗い・手指消毒）	感染委員会
	6月 集合開催	身体拘束・虐待研修	身体拘束虐待防止委員会
	6月 机上訓練	防災BCP（座学）	防災委員会
	7月 集合開催	感染（新型コロナウイルス感染症 BCP 机上訓練）	感染委員会
	9月 集合開催	ハラスメント防止研修 自分を知ってハラスメントを防止	ハラスメント防止委員会
	10月 集合開催	感染（ノロウイルスBCP 感染予 防、食中毒防止）	感染委員会
	10月 集合開催	事故防止活動	事故防止委員会
	12月 実施訓練	嘔吐処理実施訓練	感染委員会
	2月 集合開催	私の生活はどうなるの？ 大規模災害時は職員も被災者です	防災委員会

	3月 集合開催	内服事故について	事故防止委員会
特養勉強会	8月 集合開催	お年寄りの体を知る ～気をつけたい介助方法～	機能訓練指導員
	9月 集合開催	動き出しは本人から	介護主任
	11月 20.27日	接遇とは何か？	外部講師 いぬじゅん氏
	1月 集合開催	ターミナルケア（ACP） 「もしもの時」を考える	居宅管理者 包括職員
	3月 集合開催	高齢者施設における 口腔ケアの重要性	歯科衛生士
学習発表会	1回目：8月 2回目：12月 3回目：2月 17:45～18:45 施設内開催	南風 2階：仲間と暮らす 3階：自分らしい生活が送れる取り 組み 第二南風 2階：動き出しは本人からの実践 3階：心に届く声のかけ方・接し方 花菜風 生活の向上をするための取り組みに ついて	介護職員 看護職員 相談員 管理栄養士 機能訓練指導員

《実習・体験受け入れ》

1.介護福祉士単位実習

聖隷クリストファー大学	2名	8月16日～9月18日（23日間）
	2名	2月6日～3月14日（23日間）
静岡県立大学短期大学部	1名	5月17日～6月14日（20日間）

2.老年看護学実習

浜松市立看護専門学校	5名	7月11日～7月29日
	5名	8月29日～9月13日

《苦情詳細》

1.南風

受付日	申立者	内容
4月25日	親族	受診時、看護職員に不確定な情報ばかりで振りまわされた。
5月20日	本人	言葉のきつい職員に対し、対応を改めてほしい。
7月13日	親族	声のかけ方がきつい職員がいる。改善してほしい。
8月6日	本人	特定の入居者への言葉がきつく、勤務中の態度を改めて欲しい。
8月30日	行政	特定の介護職員が不適切なケアを行っているとの通報が入った為、本人、施設職員、対象入居者への聞き取り調査を行う。
10月9日	親族	なぜ骨折したのか明確に説明して欲しい
10月16日	親族 SS	話かけたら無視をされた、母の対応が心配になった。安心してショートを利用できるようにしてほしい。

2.第二南風

受付日	申立者	内容
9月19日	本人	夜間帯に職員からお腹を殴られた
10月18日	本人	職員から強い物言いと言われ、傷ついた。

《事故行政報告》

1.南風

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	転倒	顔面打撲	居室で転倒している	見舞金
2	転倒	右大腿骨転子部骨折	居室で転倒している	見舞金
3	転倒	鼻・目の下・顎骨折	居室で転倒している	見舞金
4	介助中	右足腓骨骨折	介助に痛みあり	見舞金
5	義歯紛失	紛失	確認不足による紛失	賠償金
6	外傷	胸骨骨折	介護時に痛みあり	見舞金
7	転倒	大腿骨頸部骨折	居室で転倒している	見舞金
8	転倒	頭部創傷	フロアで転倒している	見舞金
9	転倒	胸推圧迫骨折	居室で転倒している	見舞金
10	転倒	右肋骨骨折	居室で転倒している	見舞金

2.短期入所

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	転倒	肋骨骨折	リビングで転倒	見舞金
2	転倒	頭部裂傷 手首骨折	リビングで転倒し、救急搬送。 頭部縫合	見舞金
3	転倒	頬裂傷	居室で転倒して救急搬送、縫合	見舞金

3.第二南風

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	義歯破損	義歯破損	持っている義歯が二つに割れていた	賠償金
2	義歯破損	義歯破損	職員が義歯洗浄中に手を滑らせ、洗面台に落とし、義歯床が一部欠ける	賠償金
3	転倒	左膝上部の骨挫傷	トイレ介助時、ズボンを下す際に膝折れがあり、ゆっくり床に座らせた	賠償金
4	転倒	左上腕骨のヒビ	状況は定かではないが左側をぶつけたと申告あった	使用無し
5	転倒	左肋骨骨折	状況は定かではないが、トイレでよろけて左胸をぶつけたと申告あり	見舞金
6	転倒	左大腿打撲	尻もちをついている所を発見した	見舞金
7	転倒	たんこぶ	居室入り口にて右向きで倒れていたところを発見	見舞金
8	ずり落ち	大腿骨骨端骨折	1度目の受診では判明せず、2回目で判明	賠償金
9	不明	左足首上脛骨骨折	明らかな転倒事象なく、痛みの出現により判明	見舞金
10	不明	右大腿骨転子部骨折	明らかな転倒事象なく、痛みの出現により判明	見舞金
11	転倒	右肩脱臼	直立の姿勢で転倒	見舞金
12	転倒	左橈骨骨折	左を下に倒れているところを発見	見舞金
13	転倒	打撲	右頭部内出血を発見	見舞金
14	不明	打撲	右手首が腫れているところを発見	見舞金
15	転倒	打撲	居室内で大きな音がし、床に手をついた状態で見つけたところを発見	使用無し

4.花菜風

	事故内容	所見	状況	賠償保険
1	転倒	腰椎圧迫骨折	居室内で転倒、後日痛み出現し受診	見舞い金

《地域活動及び外部連携事業》

地域活動や外部との連携は、施設長のみでなく多職種が参加して地域福祉の推進や、福祉の仕事人材確保に積極的に協力をしている。一年間の活動を報告する。

1. 地域活動

年4回	倉松町サロン	南風バンド、健康体操、焼き芋等
10月5日	地域合同防災訓練	大洋製作所
3月9日	地域合同防災訓練	倉松町

2. 静岡県事業

4月9日	介護の未来ナビゲーター	委嘱式
9月13日	介護の未来ナビゲーター	浜松大平台高等学校
11月15日	介護の未来ナビゲーター	磐田北高等学校

3. 静岡県社会福祉協議会事業

8月9日	福祉のしごと学び体験ツアー	福祉講話・施設見学
9月27日	菊川市立岳洋中学校	介護体験・セミナー
10月24日	浜松市立中ノ町小学校	セミナー
10月25日	浜松市立芳川小学校	セミナー
10月29日	磐田市立豊浜小学校	介護体験・セミナー
11月6日～	保護者向け啓発資料	作成協力
11月11日	静岡県立大学短期大学部	セミナー
11月28日	聖隷クリストファー大学	セミナー
1月24日	浜松市立新津中学校	介護体験・セミナー

4. その他

5月22日	伊丹市民生児童委員	施設見学
9月19日	社会福祉法人翔の会	施設見学
10月8日	春日井市民生児童委員	施設見学
10月28日	海老名市民生児童委員	施設見学
通年	静岡県老人福祉施設協議会	研究大会実行委員副委員長
通年	浜松市社会福祉施設協議会	監事
通年	静岡県個室ユニット型施設連絡会	理事

※各事業所詳細の事業報告は別紙参照

令和6年度特別養護老人ホーム南風事業報告

I.特別養護老人ホーム南風運営評価

- ① 介護の質向上のため、プリセプターが中心となり新人へ手技の指導を個別に実施。
- ② 朝ミーティングを毎日行い、継続力を養成。リーダー会議で月ごとに評価・改善。
- ③ 年間稼働率は97.6%で目標未達。退去が続いたため、入居支援の継続が必要。
有給取得率は74%。
- ④ 接遇に関する苦情が7件。不適切ケアで行政の聞き取り調査が1件あり。法人全体で尊厳を重視したケアの勉強会を実施。

1.介護職員

【なずな】

- ① ケア変更・共有ノートを活用し、多職種で情報共有。ユニット会議の議題につなげた。
(達成率 85%)
- ② 職員の得意分野をもとに目標を立て、可視化。業務の分散化を図った。(達成率 75%)
- ③ 接遇勉強会を年4回計画したが、感染対策により2回実施できず。(達成率 50%)

【すずしろ】

- ① 自分の持ち味や得意なことをユニット職員内で共有した。個々での取り組みは出来たがユニット内での役割としては定着せず。(達成率 40%)
- ② 接遇委員会や承認面談と連動し接遇目標をたて、毎月の評価ができず3か月ごととなってしまう。(達成率 40%)
- ③ 本人の意向をモニタリング時確認することができ、24時間シートへも反映ができた。出来ることの見極めは、個々の違いで入居者によって差があった。(達成率 75%)

【なでしこ】

- ① 意見交換の場としてのノート活用ではなく報告になってしまった。(達成率 60%)
- ② 会議前にアンケートでとることで会議の進行がスムーズに行えた。(達成率 80%)
- ③ ユニットとして接遇のチェックリストの作成ができず、計画的な接遇力向上が行えなかった。(達成率 0%)

【ききょう】

- ① ユニット会議前にケアのアンケートを実施し改善にはつながったが、ニーズの把握までは至らず。(達成率 40%)
- ② 3か月に一度の意見交換会を目標としたが、計画立案ができず未実施(達成率 0%)
- ③ 個々の接遇チェックリストで振り返りを実施。ユニット目標の設定は来年度に持ち越し。(達成率 40%)

2.看護職員

- ① 医務内で統一意見は出せたが、感情的になる場面もあり。方向性と役割の明確化は継続課題。（達成率 80%）
- ② 外部研修の参加が少なく、施設内研修も未実施。（達成率 10%）
- ③ 承認面談で接遇を振り返るも、独自マニュアルは未作成。（達成率 50%）

3.管理栄養士

- ① 他職種の情報から計画書作成ができた。（達成率 70%）
- ② 厨房の人員体制変更で食器点検は困難。配膳トレーの更新に伴い小鉢の入替は未実施。（達成率 80%）
- ③ 給食主体の食事レクは事前参加できたが、ユニット食事レクは当日対応のみ。（達成率 50%）

※特別養護老人ホーム第二南風、花菜風同様

4.歯科衛生士

- ① 外部研修に参加したが、多職種への情報提供は未実施。（達成率 50%）
- ② 嚥下障害の入居者に口腔リハを実施したが、全体的な課題は残った。（達成率 70%）
- ③ 多職種と連携し、歯科受診・往診内容を家族へ都度報告。（達成率 100%）

※特別養護老人ホーム第二南風、花菜風同様

5.機能訓練指導員

- ① ミーティング日程を調整し、他施設とも連携を継続。（達成率 100%）
- ② 一体的計画書の開始で、入居者の意向確認と丁寧な説明が実施できた。（達成率 100%）
- ③ 外部研修を活かし、多職種への説明方法に工夫を反映。（達成率 100%）

6.相談員

- ① 出勤時にユニット訪問し声掛けしたが、介護補助へは挨拶のみが多かった。（達成率 80%）
- ② 介護保険を自ら調べて届出を行い、知識向上に繋がった。（達成率 30%）
- ③ 南風1階に相談室を設置し、相談・調整が円滑に。（達成率 70%）
- ④ 「親切・丁寧・笑顔」を意識し窓口対応を実践。（達成率 100%）
- ⑤ 入居者ごとの窓口を明確にし、多職種と連携した。（達成率 50%）

7.介護支援専門員

- ① 一体的計画書により、生活面中心のケアプラン作成を行い、考える機会が増えた。（達成率 40%）
- ② 介護保険更新時、コロナ延長措置の影響で状態変化が大きく、適正な介護度認定が課題に。（達成率 40%）

- ③ 意向を伝えられる入居者には家族に共有したが、他は家族の意向のみ。（達成率 50%）
- ④ ケアプランと一体的計画書の連動はできたが、24 時間シートの確認が課題。（達成率 50%）

II 短期入所生活介護

- ① 利用時・ケア変更時にアセスメント更新とミーティングでの周知を実施。（達成率 100%）
- ② 送迎や感染対策の影響で利用調整が必要となり稼働率に差が出た。（達成率 10%）
- ③ 朝ミーティングで情報を共有したが接遇に課題があり苦情も発生。（達成率 30%）

【年間稼働率】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
85%	83%	88%	90%	94%	77%	77%	78%	81%	57%	50%	62%

Ⅲ. 入居者の状況

1. 入退去状況

入退	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	4
退去	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	4

2. 退去理由

性別	在宅復帰	要支援	介護保険施設	病院	死亡(病院)	死亡(南風)	計
男	0	0	0	1	0	1	2
女	0	0	0	0	1	1	2
計	0	0	0	1	1	2	4

3. 今年度入居者の入居前の状況

性別	家庭	介護保険施設	福祉施設等	医療機関	計
男	0	0	0	1	1
女	2	0	0	1	3
計	2	0	0	2	4

4. 年齢別(令和5年3月31日現在)

性別	年齢	~64歳	65歳~69歳	70歳~74歳	75歳~79歳	80歳~84歳	85歳~89歳
男		0	1	0	2	0	2
女		1	0	3	3	6	10
計		1	1	3	5	6	12
性別	年齢	90歳~94歳	95歳~99歳	100歳以上	計	平均年齢	
男		1	1	0	7	83歳	
女		12	7	0	42	86歳	
計		13	8	0	49	85歳	

5. 要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	14
要介護2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16
要介護3	20	19	19	19	20	20	20	20	20	20	21	20	238
要介護4	18	18	18	17	16	15	16	16	17	17	17	17	202
要介護5	9	10	10	11	12	12	12	12	11	11	11	11	132
合計	50	50	50	50	51	50	50	50	50	50	51	50	602
平均介護度	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7

【延入居者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	30	31	30	31	62	60	31	30	31	31	28	31
要介護2	60	31	60	62	31	30	31	30	31	31	28	31
要介護3	588	589	570	589	620	600	620	600	620	620	555	620
要介護4	540	558	540	527	487	450	496	480	527	527	476	516
要介護5	248	310	300	341	342	360	372	360	341	341	308	341
合計	1466	1550	1500	1550	1542	1500	1550	1500	1550	1550	1395	1539
稼働率(%)	97.7	100	100	100	99.5	100	100	100	100	100	99.6	99.3

6. 入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	5	2	3	2	0	2	2	1	2	4	3	3
入院期間	10日未満	10~20日	21日~30日	30日以上	計							
人数	6	5	2	4	17							

※入院日及び退院日を含む

7. 外泊(延人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

IV. 入居者の生活状況（令和4年3月31日現在）

1. 食事状況

性別	区分 自立 (見守り令)	一部介助	全介助	経管栄養	計
男	6	1	0	0	7
女	24	9	9	0	42
計	30	10	9	0	49

2. 入浴状況

性別	区分 見守り/声かけ	一部介助	全介助	計	一般浴	中間浴	機械浴(寝浴)	計
男	0	7	0	7	1	6	0	7
女	0	30	12	42	2	28	12	42
計	0	37	12	49	3	34	12	49

3. 排泄状況

性別	区分 自立(排泄前 後の確認令)	誘導介助	オムツ介助	計	夜のみオムツ	パル ニール
男	1	6	0	7	1	0
女	2	30	10	42	2	0
計	3	36	10	49	3	0

4. 移動状況

性別	区分 独歩(不安定令)	杖	車椅子	車椅子(介助)	シルバーカー	歩行器	計
男	0	0	4	0	2	1	7
女	8	1	6	22	4	1	42
計	8	1	10	22	6	2	49

5. 更衣状況

性別	区分 自立	指示・見守り	一部介助	全介助	計
男	1	0	6	0	7
女	2	1	15	23	42
計	3	1	21	23	49

V. 実施した行事等

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

なずな	誕生レク・おやつ作り・餃子・漬物
すずしろ	誕生レク・おやつ作り・天ぷら作り
なでしこ	誕生レク・おやつ作り
ききょう	誕生レク・おやつ作り・豚汁

VI. ヒヤリハット・事故報告

(事故)

1. 事故内訳

転倒・転落	192
薬剤	42
外傷	3
エスケープ	5
異食	47
誤飲	1
その他	57
合計	347

2. 所見

異常なし	269
創傷	21
打撲	5
内出血	3
骨折	8
その他	41
合計	347

3. 発生場所

居室	125
トイレ	15
リビング	171
廊下	7
浴室	5
その他	24
合計	347

令和6年度特別養護老人ホーム第二南風事業報告

I 【特別養護老人ホーム第二南風運営評価】

- ① 外部研修参加内容を学習発表会のテーマに繋げ、各階でテーマに沿った取り組みが行われた。
- ② リーダー会議で各専門職からの発言を引き出せたが、報告会のように活発な意見交換ができなかった。運営方法の見直しが課題となった。
- ③ 今年度も入退去が多く、入院からの退去者もいたため、稼働率は97.5%。100%の月がなかったため、次期入居者への事前声掛けを行う。
- ④ 有給取得率は70%を目標にしていたが、実際には66%にとどまった。
- ⑤ 接遇チェックリストを継続し、接遇面の向上につながった。担当入居者家族・関係者とのコミュニケーションにより、居室担当としての意識が高まった。
- ⑥ 居室環境チェック担当者を配置し、居室チェックを継続。職員が固定されないことで、個々が居室環境に目を向けるようになった。

1.介護職員

【あやめ】

- ① 職員の良いところは把握しているが、伝えきれていないため、伝えていけるよう努めた。異動後はコミュニケーションを意識して、取り組んだ。(達成率40%)
- ② 入居者のペースに合わせて過ごしてもらったが、家族や入居者に直接聞いてケアを行うことができなかった。特定の入居者では将棋や風船バレーを日常的に行い楽しんでいて、入居者希望の「すごろく」で盛り上がった。(達成率60%)
- ③ 身だしなみは整えることができ、ご家族の面会時に普段の様子を伝えることができたが、入居者の過ごしやすい環境を整えることができなかった。(達成率40%)

【さつき】

- ① 9月のユニット会議で職員が参加した外部研修(転倒予防)を共有し、座位でできる体操の資料を提供。その他の研修は対象が限定されていたため、内容の共有のみとなった。(達成率50%)
- ② 接遇委員会が作成した接遇チェックリストを活用し、自己評価と他者評価を実施。挨拶に関するアンケートを行い、ユニット会議や承認面談でフィードバックを行ったが、頻度ややり方に課題が残った。(達成率10%)
- ③ 個別の育成計画(個人目標管理シート)を作成し、進捗状況の把握や成長支援を行った。ほなみ会の承認制度が4月1日よりスタートしたため、新たな取り組みはせず、承認面談を通じて進捗状況の把握や成長支援を行った。(達成率50%)

【つばき】

- ① 移乗に関しては動画を撮影し、ユニット職員以外にも周知できた。動画にできない

ケアは、できる職員がその都度、他職員に指導できた。(達成率 50%)

- ② ADL 評価項目シートの活用はうまくできなかつたが、ユニット会議以外でケアの見直しや変更をその都度行っていた。ユニット職員からのケアに関する発信率が高く、入居者に合わせて迅速にケアに繋げることができた。(達成率 20%)
- ③ 会議内で接遇に関する話をする時間が取れなかつたが、目標設定はでき、各職員が実行していた。接遇が改善し、ユニット内の空気が明るくなった。(達成率 30%)

【かりん】

- ① ユニット職員同士で入居者情報を共有し、日々の何気ないことも記録に残し、記録を意識して確認。ユニットリーダーからの情報を会議で発信し、ケアに反映。職員全員が入居者に意識を向け、会議内で意見を発することができた。(達成率 80%)
- ② ユニット独自の接遇チェックリストを作成し、ユニット会議で評価。シーツや衣類の汚れ、居室の衛生面について意識したが、放置されがちだった。(達成率 50%)
- ③ 職員同士で持ち味カードを活用し、お互いの良い点を認め合い、自信に繋げようとしたが、実施できなかつた。職員の強みを見つけ、それを生かしてモチベーション向上を目指したが、会議内で検討事項が多く実施が難しかった。(達成率 40%)

【かえで】

- ① ユニット職員の役割明確化と評価を目指したが、評価方法が定まらず、取り組みの効果が見えづらかつた。今後は評価方法を明確にし、強みを生かした対応ができるようにしたい。(達成率 30%)
- ② 自分の意見を持ち、会議で発言する機会が増えたが、意見がまとまらない場面もあった。今後は方向性を定めて、意見を整理・共有できるようにする。(達成率 80%)
- ③ 入居者のやりたいことを聴き取り、誕生日レク等で実現できた部分もあったが、日常生活への反映は不十分。職員から前向きな提案もあり、今後に期待。(達成率 50%)

【ぼたん】

- ① ユニット職員の良い所を見つけ伝え合う場を 3 ヶ月に 1 回に変更し継続。職員の強みの発見や観察力の向上に繋がった。(達成率 75%)
- ② 介護技術の自己チェックリストを活用し、技術の見直しと向上が図れた。点数の上昇やケアの質の向上がみられた。(達成率 70%)
- ③ 優しい声掛けや思いやりのある対応を意識したが、感情的になる場面もあり課題が残った。感情をコントロールできる環境づくりが必要。(達成率 45%)

2.看護職員

- ① 異動時も引継ぎを行い、役割を継続して各職員が医務内で役割を持ち活動できた。(達成率 100%)
- ② 医務会議を年 4 回 (4 月、7 月、10 月、1 月) 実施し、定期的な情報共有を図った。(達成率 100%)

- ③ 看取りに関する意向確認の家族会を開催したが、終末期医療の事前調査の集計までは実施できなかった。(達成率 80%)
- ④ 各職員が外部研修に参加し、褥瘡予防の学びを出前講座として展開。スキンケア勉強会に 3 施設 25 名が参加した。(達成率 100%)

5.機能訓練指導員

- ① 自施設の専門職としての朝のミーティング参加も考慮し、機能訓練のミーティング実施日の調整を行った。ミーティングの回数は減ったが、他施設の機能訓練指導員とは都度の相談が多くでき連携がとれた。(達成率 100%)
- ② 一体的計画書を開始したことで入居者へ直接意向の確認ができるようになった。確認時はリハビリ内容の説明もわかりやすい言葉での説明を行えた。(達成率 100%)
- ③ 外部研修への参加をすることで、多職種への説明等の工夫に役立てた。(達成率 100%)

6.生活相談員

- ① 出勤時の声かけは挨拶にとどまり、プラスの関わりができなかった職員もいた。(達成率 50%)
- ② 新たな加算取得に向け、相談員同士で知識を深め、協力して届け出を行った。(達成率 50%)
- ③ 南風 1 階に相談室を設置し、他施設との連携や相談しやすい体制が整った。(達成率 80%)
- ④ 「親切・丁寧・笑顔」を意識し、入居者・家族・来客・職員と良好な関係を築けた。(達成率 80%)
- ⑤ 介護主任と役割を分担し、ご家族への体調報告など密な連携ができた。(達成率 80%)

7.介護支援専門員

- ① 入退去・入院が多く、1 週間以内のカンファレンスが実施できなかった。他職種とのカンファレンスも未実施だったが、職員間での相談・検討は行えた。(達成率 30%)
- ② サービス担当者会議前に他職種でモニタリングを実施し、課題抽出・プランニングにつなげることができた。(達成率 80%)
- ③ 面会時の意向確認は実施できたが、面会以外では 3 か月に 1 回の対応となったご家族もいた。(達成率 50%)
- ④ ケアプランと一体的計画の周知を開始したが、24 時間シートとの連動確認までは至っていない。(達成率 30%)

II. 入居者の状況

1. 入退去状況

入退	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	1	3	0	3	0	3	1	2	2	3	4	2	24
退去	2	2	2	0	2	2	2	1	4	3	3	0	23

2. 退去理由

性別	在宅復帰	要支援	介護保険施設	病院	死亡(病院)	死亡(第二南風)	計
男	0	0	0	0	1	7	8
女	0	0	0	3	0	12	15
計	0	0	0	3	1	19	23

3. 今年度入居者の入居前の状況

性別	家庭	介護保険施設	福祉施設等	医療機関	計
男	5	0	1	4	10
女	7	2	3	2	14
計	12	2	4	6	24

4. 年齢別(令和3年3月31日現在)

性別	～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳
男	0	0	1	1	5	5
女	0	0	1	4	6	13
計	0	0	2	5	11	18

性別	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	平均年齢
男	5	0	0	17	85.7歳
女	11	8	0	43	88.3歳
計	16	8	0	60	87.6歳

5. 要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	40
要介護2	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	30
要介護3	16	15	14	15	14	14	15	17	19	18	21	22	200
要介護4	25	27	28	28	28	28	26	25	24	25	25	23	312
要介護5	13	14	12	12	13	13	13	12	11	10	9	9	141
合計	60	61	59	60	60	61	60	60	61	60	61	60	723
平均介護度	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.7

【延入居者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	90	93	90	93	93	90	93	90	124	124	112	124
要介護2	90	62	60	62	62	90	93	90	93	93	56	62
要介護3	477	444	420	463	426	398	465	475	535	490	558	682
要介護4	729	808	804	847	868	820	806	750	743	750	644	692
要介護5	368	391	360	372	380	365	401	358	326	289	242	270
合計	1754	1798	1734	1837	1829	1763	1858	1763	1821	1746	1612	1830
稼働率(%)	97.4	96.7	96.3	98.8	98.3	97.9	99.9	97.9	97.9	93.9	96	98.4

6. 入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	1	0	2	3	2	0	1	1	3	0	0	1
入院期間	10日未満	10～20日	21日～30日	30日以上	計							
人数	4	3	2	4	13							

※入院日及び退院日を含む

7. 外泊(延人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ. 入居者の生活状況（令和4年3月31日現在）

1. 食事状況

性別	区分	自立(見守り含)	一部介助	全介助	経管栄養	計
男		14	0	2	1	17
女		32	3	6	2	43
計		46	3	8	3	60

2. 入浴状況

性別	区分	見守り/声かけ	一部介助	全介助	計	一般浴	中間浴	機械浴(寝浴)	計
男		0	12	5	17	3	10	4	17
女		1	19	23	43	7	30	6	43
計		1	31	28	60	10	40	10	60

3. 排泄状況

性別	区分	自立(排泄前後の確認含)	誘導介助	オムツ介助	計	夜のみオムツ	バルーンカテーテル
男		6	7	4	17	5	2
女		11	24	8	43	8	0
計		17	31	12	60	13	2

4. 移動状況

性別	区分	独歩(不安定含)	杖	車椅子	車椅子(介助)	シルバーカー	歩行器	計
男		2	0	6	8	0	1	17
女		4	0	11	21	6	1	43
計		6	0	17	29	6	2	60

5. 更衣状況

性別	区分	自立	指示・見守り	一部介助	全介助	計
男		2	1	9	5	17
女		6	2	18	17	43
計		8	3	27	22	60

Ⅳ. 実施した行事等

行事名	月日	時間	内容
花見	4月10日・12日	14:00 - 15:30	海浜公園にて散策・花見を楽しむ。
夏祭り	8月30日	14:00-15:00	昼食：たこやき・唐揚げ・餃子セレクト 魚釣り等のゲームで、得点に応じた景品。
鍋パーティー	11月27日	11:30-13:00	寒くなってきた為、ちゃんこ鍋で温まってもらおうと計画。お鍋を食す。
2階合同誕生日会	11月29日	14:00 - 15:30	各ユニットに誕生日祝いで、ホットケーキ作り、デコレーションセレクトをし、食す。
新年会	1月17日	14:00-16:00	コロナ感染対策中だったため各ユニットにて鍋を食す。
パンケーキ作り	2月27日	14:00-15:30	3階にてパンケーキ作りを実施、トッピングを各自に選んでもらい食す。
桜餅作り	3月18日	14:00 - 15:30	2階にてさくら餅作りをし、食す。
ぼたもち作り	3月20日	14:00-15:00	3階にて、午前中入居者と一緒にあんこ作りをし、午後に入居者とぼたもち作り、食す。

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

つばき	誕生日レク(プレゼント、おやつ作り、外出)、おやつ作り
あやめ	誕生日レク(プレゼント、おやつ作り)、おやつ作り
さつき	誕生日レク(プレゼント、おやつ作り)、おやつ作り
ぼたん	誕生日レク(プレゼント、おやつ作り)、おやつ作り、ユニット飾り作り
かりん	誕生日レク(プレゼント、おやつ作り)、おやつ作り、ユニット飾り作り
かえで	誕生日レク(プレゼント、おやつ作り、外出)、おやつ作り

V. ヒヤリハット・事故報告

1. 事故内訳

転倒・転落	151
薬剤	57
外傷	19
エスケープ	0
異食	8
誤飲	4
その他	47
合計	286

2. 所見

異常なし	175
創傷	26
打撲	4
内出血	7
骨折	5
その他	69
合計	286

3. 発生場所

居室	102
トイレ	24
リビング	139
廊下	7
浴室	3
その他	11
合計	286

令和6年度 特別養護老人ホーム花菜風 事業報告

I. 特別養護老人ホーム花菜風 運営評価

- ① 各職員が専門性を活かし、根拠のあるケアを実践することを目指したが、カンファレンス開催に苦手意識があり、10分カンファが定着しなかった。多職種連携とPDCAサイクルの継続に課題が残る。
- ② 個々の強みを活かし、係・委員会運営を開始したが、強みに立ち返ることが不足していた。承認し合う体制の再構築が必要。
- ③ 家族の面会頻度が増え、ユニット職員と家族との関係作りが進んだ。接遇委員会で振り返りができたが、明確な成果には繋がらなかったため、継続的な取り組みが必要。
- ④ 事前のアセスメントや準備が不十分で、スムーズな入居に繋がらなかった事例が多かった。年間稼働率は98.9%。
- ⑤ 有給休暇取得率は75%。

1. 介護職員

【花水木】

- ① 3ヶ月ごとのスローガンを設定し、同じ方向で取り組むことができた。持ち味が承認され、モチベーション向上とチームの強みが生まれた。(達成率80%)
- ② 職員の個別目標で接遇マナーのビジョンを明確化し、課題→修正→実施を繰り返してケアの質向上に繋がった。個々の反省点も明確化できたが、居室の環境整備は不十分であった。(達成率80%)

【花菱草】

- ① 日々の業務で感謝の気持ちや良いところを伝えることは心掛けたが、実施方法が定まらず具体的な取り組みができなかった。(達成度10%)
- ② 個々の入居者に向き合うためにチェック表を使用した。振り返りがうまくできず、チェックするだけになってしまった。運用方法の検討と来年度の取り組みが必要。(達成度30%)

【花菖蒲】

- ① 毎月接遇チェックリストを実施し、課題項目を次月の目標として設定。5月～12月は毎月実施し、1月～3月は同じ目標を重点的に取り組んだ。チェックリスト実施ごとに達成率が向上し、職員全員が意識して取り組んだ。チェックリスト項目の達成率は80%であり、引き続き意識して実施。(達成率80%)
- ② 他職員の意見を通じて自己理解を深め、3ヶ月ごとに目標を振り返る取り組みを行った。方法が複雑だったため途中で見直し、再度目標を設定。結果として、全員が初回より多くの項目で達成し、成長が見られた。(達成率80%)

2.看護職員

- ① 介護職員のニーズに合わせた勉強会を随時実施し、資料だけでなく実践も行えるようにした。外部研修に参加できたが、伝達が不足してしまった。(達成度 80%)
- ② ミーティング規模の話し合いを習慣化し、多職種に統一した方針を伝えることができるようになった。(達成度 90%)
- ③ 面会や医療面談が多かったため、その都度接遇対応を心掛けた。今後は多職種職員と協力体制を築くため、医務内での連携が必要。(達成度 80%)

4. 機能訓練指導員

- ① ミーティングの実施回数は集団体操日のみとなるが多かったが、入居者の状態報告や相談はミーティング・会議時に行い、ケアへの反映に繋がった。(達成率 80%)
- ② 入居者の状態把握やニーズの聞き取りを 3 ヶ月に 1 度行い、サービス担当者会議で周知することで、自立支援の検討・実施に繋がった。自分らしい生活を軸に、安全面を考慮し促し続けた。(達成率 70%)

5. 生活相談員

- ① 毎日ユニットを回り挨拶はしていたが、+1 の声掛けには偏りが出た。関係作りに意識的に取り組む必要があり、次年度に繋げる。(達成率 40%)
- ② 事例共有はあったが、勉強会はできなかった。外部研修や介護保険・ケアプラン・相談援助などの必要な知識を共有する必要がある。(達成率 10%)
- ③ 南風 1 階の相談室で業務を行うことで、情報共有や意見交換ができ、連携しやすい体制を作ることができた。(達成率 80%)
- ④ 対面での関わりではスローガンを意識して実践できたが、電話対応では会話に意識が向き、笑顔や丁寧な関わりが欠けた。(達成率 70%)
- ⑤ 面会時に家族とのコミュニケーションを継続し、看護師と協力して体調に関する電話連絡を行うことができた。(達成率 70%)

7. 介護支援専門員

- ① 家族や本人の意向を共有し、ケース記録や会話で職員や家族に伝達したが、実際のケア内容に繋げることが不十分だった。(達成率 70%)
- ② アセスメントやモニタリングを居室担当職員や多職種と実施したが、職員によって観察点が異なり、必要な情報が得られないことがあった。目的や方法の明確化と情報・評価の質向上が課題。(達成率 60%)
- ③ 専門職との連動・協働に課題があり、個別ニーズに合わせたケアプラン作成や多職種連携のため、サービス担当者会議の質向上を目指す。(達成率 40%)

II. 入居者の状況

1. 入退去状況

入退	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居	1	0	1	1	0	1	0	2	1	0	2	0	7
退去	1	0	1	1	1	1	1	2	0	2	0	0	7

2. 退去理由

理由	在宅復帰	要支援	介護保険施設	病院	死亡(病院)	死亡(南風)	計
男	0	0	0	0	0	3	3
女	0	0	0	0	0	4	4
計	0	0	0	0	0	7	7

3. 今年度入居者の入居前の状況

区分	家庭	介護保険施設	福祉施設等	医療機関	計
男	2	1	0	0	3
女	1	1	0	2	4
計	3	2	0	2	7

4. 年齢別(令和6年3月31日現在)

年齢	～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳
男	0	0	0	1	2	1
女	0	0	2	2	5	6
計	0	0	2	3	7	7

年齢	90歳～94歳	95歳～99歳	100歳以上	計	平均年齢
男	0	1	0	5	85.8
女	5	4	0	24	88.2
計	5	5	0	29	87.8

5. 要介護度別入居者数一覧及び要介護度

【実入居者数】 ※各月末実数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	9	9	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	114
要介護4	11	11	10	11	11	11	11	11	12	11	13	13	136
要介護5	8	8	8	7	7	7	7	7	7	6	6	6	84
合計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	27	29	29	346
平均介護度	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8

【延入居者数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
要介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護3	270	279	300	310	310	300	310	300	279	279	236	279
要介護4	330	341	300	311	341	330	341	308	356	361	361	403
要介護5	240	248	240	238	217	198	217	199	217	211	168	186
合計	370	899	870	890	858	858	899	837	883	882	793	899
稼働率(%)	100	100	100	98.9	100	98.6	100	96.2	98.2	98.1	97.6	100

6. 入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
入院期間	10日未満		10～20日		21日～30日		30日以上		計			
人数	0		1		1		0		2			

※入院日及び退院日を含む

7. 外泊(延人数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ. 入居者の生活状況（令和7年3月31日現在）

1. 食事状況

性別	区分	自立(見守り含)	一部介助	全介助	経管栄養	計
男		2	1	1	1	5
女		12	6	5	1	24
計		14	7	6	2	29

2. 入浴状況

性別	区分	見守り/声かけ	一部介助	全介助	計	一般浴	中間浴	機械浴(寝浴)	計
男		0	2	3	5	0	2	3	5
女		2	9	13	24	7	7	10	24
計		2	11	16	29	7	9	13	29

3. 排泄状況

性別	区分	自立(確認含)	誘導介助	オムツ介助	計	夜のみオムツ	膀胱ろう	バルーンカテーテル
男		0	4	1	5	0	0	0
女		0	15	9	24	2	1	1
計		0	19	10	29	2	1	1

4. 移動状況

性別	区分	独歩(不安定含)	杖	車椅子	車椅子(介助)	シルバーカー	歩行器	計
男		1	0	1	3	0	0	5
女		3	0	1	16	4	0	24
計		4	0	2	19	4	0	29

5. 更衣状況

性別	区分	自立	指示・見守り	一部介助	全介助	計
男		0	0	2	3	5
女		0	4	7	13	24
計		0	4	9	16	29

Ⅳ. 実施した行事等

行事名	月日	時間	内容
花見	4月1日～5日	14:00～15:00	近くの神社に出かけて桜を見る。
母の日	5月7日	14:00～15:00	カーネーションを渡して記念撮影をする。
父の日	6月14日	14:00～15:00	男性入居者へ飲み物を飲みながら一緒に過ごし、プレゼントを贈る。
運動会	6月24日	14:00～16:00	ボーリング、紐綱引きを楽しむ。おやつはワッフルを食べる。
七夕	7月7日	14:00～14:30	短冊に願い事を書く。笹を飾り付けて一緒に写真を撮る
納涼祭	8月20日	11:00～15:00	ユニットごとなたこ焼きなどの屋台飯を昼食に食べる。おやつはロールケーキを食べ
忘年会	12月24日	昼食	昼食にナゲットを食べる。
新年会	1月22日	14:00～16:00	昼食はちらし寿司。設置した鳥居前におみくじとお賽銭箱を用意し千本引きを楽し

【各ユニット別の行事・レクリエーション】

花水木	誕生レク（ケーキ作り、外出、等）・おやつ作り・季節の飾り作り
花菱草	誕生レク（プレゼントや色紙を渡す、ケーキ作り、外出、等）・おやつ作り
花菖蒲	誕生レク（プレゼントや色紙を渡す、ケーキ作り、外出等）・おやつ作り

V. 花菜風運営推進会

月日	参加者	内容
5月16日、7月17日 9月19日、11月21日 1月16日、3月19日	浜松市健康福祉部介護保険課職員 地域包括支援センター新津の職員 地域密着型介護老人福祉施設入所者 生活介護について知見を有する者 入居者、入居者家族、地域住民の代表者 事務局（施設長、生活相談員）	活動状況、入居者状況、入居申込者 状況従業者の状況等の報告・評価、令和5年度事業報告、令和7年度事業計画、意見、要望等。

VI. ヒヤリハット・事故報告

1. 事故内訳

転倒・転落	36
薬剤	28
外傷	50
エスケープ	2
異食	4
誤飲	1
その他	23
合計	144

2. 所見

異常なし	56
創傷	37
打撲	2
内出血	27
骨折	0
その他	22
合計	144

3. 発生場所

居室	60
トイレ	3
リビング	50
廊下	2
浴室	20
その他	9
合計	144

令和6年度 デイサービスセンター南風事業報告

1、事業規模

①利用者人数について

令和6年度

	延人員	換算人員	月平均	営業日数	1日当り人数
4月	854	847.75	847.75	26	32.8
5月	834	827.00	837.38	27	30.9
6月	803	797.00	823.92	25	32.1
7月	808	802.75	818.63	27	29.9
8月	829	823.75	819.65	27	30.7
9月	787	780.50	813.13	25	31.5
10月	810	804.25	811.86	27	30.0
11月	788	781.25	808.03	26	30.3
12月	801	795.75	806.67	26	30.8
1月	712	705.00	796.50	24	29.7
2月	712	705.00	788.18	24	29.7
3月	777	772.00	786.83	26	29.9
合計	9515	9442.00		309	30.7

※換算人員：1日の利用時間が7時間以上の場合は1人と計上し、5時間以上～7時間未満の場合は0.75人、2時間以上～5時間未満の場合は0.5人と計上します。

令和6年4月から令和7年2月までの1月あたりの平均利用延人員が788人となりましたので、令和7年度も前年度に続き、事業所規模が750人から900人以下の大規模型事業所（Ⅰ）として営業していきます。

- ・新規利用者数 29人
- ・終了者数 30人（一か月を超える利用中止も含む）

②中重度ケア体制加算(45単位/日)について

※要介護の利用者で要介護3以上の利用者の割合が3割を超えている場合に加算

・令和6年の1年間(4月～2月の11ヶ月)の期間における要介護3以上の割合が、28.2%でしたので、令和7年4月より加算の算定ができません。令和7年度は、算定日の属する月の前3か月における利用者要介護3以上の割合が30%を超えたら算定が開始できるよう準備を進めていきます。

2、職員入退職について

- 入職 2名(介護職員、運転手)
- 退職 3名(介護職員、運転手、機能訓練指導員)

3、日常活動の取り組みについて

少しでも長く在宅生活が続けられることを目的としたプログラム

<身体機能の機能訓練>

- ① 個別機能訓練
 - ・転倒防止のための下肢筋力トレーニング
 - ・関節可動域訓練
- ② 在宅生活継続訓練(立ち上がり動作・排泄動作・嚥下機能訓練)

<認知症リハビリ～認知機能の機能訓練～>

認知症の予防・進行防止・BPSD(認知症の周辺症状)の緩和を目的に実施

- ・音楽療法 月・火・金・土 AM
- ・回想法 水・金 PM
- ・芸術療法 火・木・土 PM
- ・園芸療法 月～土 AM ※天候や作物により変動あり。
- ・作業療法(書道・ペン習字)
 - 書道 水・木 AM
 - ペン習字 月 PM
- ・脳トレーニング

<クラブ活動>

- ・フラワーアレンジメント 月1回第2火曜日 AM
- ・生け花 月1回第3木曜日 PM

屋外での活動の園芸療法の利用者参加率は低く、畑を耕し種・苗を植える等の作業は非常に難しい方が増えました。収穫は職員とともに楽しんでいただいています。収穫した野菜は、少量ずつではありますが試食をしていただきました。今後も活動を継続していきたいと思いますが、天候等含め無理なく楽しめる内容にしていきます。

はたら倶楽部は、スタッフの人数確保においても難しく中止しています。

屋内での活動は、利用者の反響や機能訓練の効果を含め継続するか変更するかを職員間で話し合い、令和7年度の活動内容に反映していきます。

<その他の活動>

①「楽心出」(たのしんで)

- ・地域支援事業として介護予防のための運動を中心にした住民主体によるデイサービス
場所の提供・指導員の派遣
毎週 火・木・日 10時～11時30分 / 14時～15時30分

② 地域福祉活動への参加

銭太鼓サークルへの指導員の派遣(月2回)

4、デイ職員研修

<デイ会議内法人勉強会>

- ・入浴介助に関する研修
- ・膀胱留置カテーテルと排尿バッグの取り扱いについて
- ・機械浴槽取り扱いについての確認
- ・移乗用リフトの操作方法に関する勉強会

<外部研修 ※web 配信含む >

- ・高齢者の急変時対応セミナー・・・小野
- ・福祉・介護施設職員向け感染症対策研修について・・・谷山
- ・人材育成研修会・・・夏目
- ・明日から使えるレクリエーションの発想・・・中村久美

- ・令和6年度セルフリーダーシップのススメ・・・望月
- ・福祉・介護施設職員向け感染症対策研修について・・・兼古
- ・関東ブロック老人福祉施設研究総会長野大会(観覧)・・・杉浦
- ・「介護の日」啓発活動街頭キャンペーン参加・・・中村久美
- ・三好春樹の人間学に基づく認知症介護講座(WEB)・・・鈴木千尋
- ・地域包括ケアに資する人材育成研修会・・・望月
- ・第2回保護者向け啓発資料作成検討委員会・・・望月
- ・口腔のケア講座・・・渡辺
- ・第2回保護者向け啓発資料作成検討委員会・・・望月
- ・科学的介護情報システム「LIFE」研修会・・・望月、兼古

5、その他の取り組み

通信文「認知症のお話」の継続

6、利用定員 40名

7、営業日・営業時間 月曜日～土曜日(日曜日は休業) 9:30～16:35

8、苦情・ヒヤリハット・事故報告

【苦情】 1件 デイノートが渡されてないと利用者様自ら来訪される。確認すると送迎時のお渡し忘れが発覚。謝罪する。当該利用者様は自宅まで担当ケアマネが送迎対応する。

【ヒヤリハット・事故報告 概要の報告】

ヒヤリハット 24件

事故 4件

	内容	詳細	対策・対応
4月	異食 (ヒヤリ)	食事が済んだ後の主菜用のお皿をティッシュペーパーでふき取った後に箸で掴んで口に含もうとしたところを職員が止めた。	食後は出来るだけ速やかに下膳を行う。ティッシュペーパーを食事にご本人のそばに置かない等の環境を整える。
	転倒 (事故)	帰りの送迎時に降車し玄関まで向かう際にバランスを崩し地面に膝をつく。右ひざに皮むけができてしまう。	職員間の申し送り不足(介助方法)が原因であった。情報をしっかり共有する。
5月	食事提供ミス (ヒヤリ)	昼食時に主食お粥の利用者へご飯を配膳してしまった。一口食べてしまった。	食札をしっかりと見て配膳を行う。
	介助ミス (事故)	入浴介助中にストレッチャー上で姿勢を直す際にストレッチャーの手すりに尿道留置カテーテルの接続部が外れてしまう。	介助中の管の位置確認。

	異食 (ヒヤリ)	ソフト食の方が食事中に前の席の利用者様の常食のおかずを食べてしまう。	食事の席の検討。行動を把握し対応。
6月	転倒 (ヒヤリ)	朝の送迎時に降車し玄関まで向かう際にバランスを崩し地面に膝がつきそうになった。	外傷なし。家族と一緒に介助をする際は声を掛け合う。
	転倒 (ヒヤリ)	自席の前で尻もちをつく。受傷なし。	体調がすぐれず、落ち着かない様子があるときは職員間で共有し見守り等対応する。
	食事提供ミス (ヒヤリ)	ソフト食の方にカステラを配膳してしまう。	食事・おやつ配膳方法を再検討。
	食事提供ミス (ヒヤリ)	普段、汁物薄目で提供の利用者様に通常の濃度の汁物を提供してしまう。	食事・おやつ配膳方法を再検討
	食事提供ミス (ヒヤリ)	主食粥ミキサーの方に粥を提供してしまう。	食事・おやつ配膳方法を再検討
7月	薬剤 (事故)	昼食後薬の内服介助忘れ。	薬チェック時に色をつけてマーキングする。薬がクリアケース内の書類に紛れていないか確認。
8月	食事提供ミス (ヒヤリ)	おやつ時にミキサー食の方に常食のドーナツを提供してしまう。	配膳方法の再周知。食形態が異なる利用者様の食事の席を変更検討。
10月	転倒 (ヒヤリ)	来所時に送迎車両から降りる際に足を滑らしてバランスを崩し座り込んでしまう。	円背があり右足に痛みがある方であるので、送迎時はご本人の身体状況にあわせた車高の車両を可能な限り使用することとした。
11月	転倒 (ヒヤリ)	機能訓練(集団体操)中に椅子を持ったまま立ち上がり、そのまま左側へ転倒。	運動を担当する職員は利用者が見やすい位置で指導を行う。他職員は体操の補助につく。
	異食 (ヒヤリ)	脳トレーニング中に玩具の豆を口の中に入れてしまう。	食べ物と食べられないものの区別がはっきりしないこと、豆が好きであることが情報収集でわかったので職員間で共有し、口に入りそうな大きさのものはご本人の周りに置かないようにした。

12月	食事提供ミス(ヒヤリ)	刻み食の方に氏名が一字違いの常食の利用者様の昼食を誤って提供してしまう。	食札をしっかりと確認。食札に厨房で使用の付箋がついており、刻みの印が隠れていたため、厨房にお願いし配膳台セット時に付箋を外してもらうことにした。
	食事提供ミス(ヒヤリ) ※2件分	配膳トレイ内でソフト食とミキサー食の主菜のみ入れ替わっていることに気が付かずに食事介助をしてしまった。	配膳前に食形態を再確認する。
	異食(ヒヤリ)	おやつ後にティッシュペーパーを口に含んでしまう。	自宅でも同様なことがあったことを家族から聞き、目の前にティッシュペーパーを置かないようにすることにした。
	その他(ヒヤリ)	口腔ケア時に他利用者の歯ブラシで歯磨きをしてしまう。	普段は自歯がないためうがいのみ対応であったが、本人用に歯ブラシを用意してもらった。また、使用してしまった歯ブラシの持ち主からは替えを用意してもらっていたところであったので、歯ブラシを交換した。
	介助ミス(ヒヤリ)	排尿カテーテルのクランプ開放忘れ。	クランプ施行後の介助をダブルチェック徹底。
	転倒(ヒヤリ)	フロアでテーブルに寄りかかってしまいそのまま転寝し、転倒。外傷なし。	ご本人の席の近くのテーブル撤去。椅子に座っていただくよう声かけする。
1月	異食(ヒヤリ)	おやつ後にティッシュペーパーを口に含んでしまう。	テーブルの上の環境整備。普段と異なる行動があった時の行動の把握と情報共有。
2月	異食(ヒヤリ)	昼食時にデザートของブドウムースとティッシュペーパーを一緒に口の中に入れてようとする。	発生前にも普段と異なる行動があったので、普段と異なる行動が見られたときは行動に気を付ける。
	転倒(ヒヤリ)	職員付き添いの元、自動販売機でジュースを購入後にシルバーカーの手すりを掴みそびれ転倒。	方向転換時に支えたり、シルバーカーの位置に気を付ける。普段はおひとりため動き出すときは注意するよう声かけを行う。
3月	食事提供ミス(ヒヤリ)	トロミの牛乳を提供する方にトロミなしの牛乳を提供してしまった。	トロミを付けて提供する利用者の確認・把握。

行動把握不足 (ヒヤリ)	自宅からペットフードを持参しおやつ時に前の席の方に配っているところを発見する。	家族・本人に荷物の確認を依頼。デイサービスでも到着後荷物チェックを行う。
転倒 (事故)	失禁してしまいひとりで何とかしようと、事務所横のトイレにて転倒。額に軽度発赤あり。	水分を多くとりすぎお腹が緩くなる傾向があるので、水分摂取量に気を付けることと、排泄で失敗してしまった時は一人で対応せず職員へ声をかけてほしいことを本人へ伝えた。排泄自立ではあるが、職員からも定期的に声かけを行う。

今年度は、食事提供ミス介助ミスのヒヤリハット報告が多く上がってしまいました。特に食事提供ミスに関しては、今年度のデイ会議の中で数回議論しました。提供方法を統一し、課題が見つければ修正していくことを今後も繰り返し、再発防止に努めていきます。

令和6年度 第2 デイサービスセンター南風 事業報告

1. 事業規模と利用者数について

令和6年度は通常規模の規模区分で運営し、目標とする約750人/月には届かず、709.09人/月となりました。主な要因としては、年末年始の体調不良者急増とインフルエンザ感染拡大による事業休止が考えられます。その他、新規利用者は増加しているものの、体調不良による利用中止や施設入所等が重なり、利用登録者数が伸び悩んでいる状況です。地域の人口統計や事業所数を見ると、今後も厳しい状況が続くと予想されます。

事業規模区分

	平均利用延人員数（※）
通常規模型	750 人以内
大規模型 I	750 人を超え 900 人以内
大規模型 II	900 人を超える

（※）平均利用延人員数の算定方法—実人数に下表の数字を乗じた数

サービス提供時間	要介護の場合の乗数	事業対象者・要支援の場合の乗数
2 時間以上 3 時間未満	0.5	0.5
3 時間以上 5 時間未満	0.5	
5 時間以上 7 時間未満	0.75	0.75
7 時間以上 9 時間未満	1	1

	延人員	換算人員	月平均 (換算人員)	営業日数	1日当り 人数
4月	734	731.75	731.75	26	28.2
5月	765	762.75	747.25	26	29.4
6月	725	721.50	738.67	26	27.9
7月	786	780.50	749.13	27	29.1
8月	721	716.75	742.65	26	27.7
9月	671	667.75	730.17	26	25.8
10月	772	768.25	735.61	25	30.9
11月	769	762.25	738.94	26	29.6
12月	670	663.50	730.56	26	25.8
1月	523	517.50	709.25	24	21.8
2月	713	707.50	709.09	25	28.5
(3月)	712	708.75	709.06	27	26.4

2. サービスの質向上について

(1) ケア検討会

一つひとつのケースを熟知することで、個別ケアの質が向上し、また、多職種協働でケア検討会を実施することで、チーム力も向上したと感じています。

開催日は以下の通りです。

4/16 (火)・5/21 (火)・6/18 (火)・7/16 (火)・8/20 (火)・9/17 (火)

10/15 (火)・11/19 (火)・12/17 (火)・1/21 (火)・3/18 (火) 計 11 回開催

(2) サービス提供プログラムの評価

ご利用者、ご家族様にアンケート調査を実施しました。56 名の回答のまとめは以下の通りです。

- ・機能訓練プログラムの内容について不満を感じているご利用者は 0 人。
- ・脳トレ、手指作業、レク等テーブルで行う作業について不満を感じているご利用者は 0 人。
- ・運動量については、「多い」5 名、「まあまあ多い」9 名、「普通」39 名、「まあまあ少ない」3 名となっており、以前の「運動が多すぎる。」「お茶を飲む時間もない。」等の意見が聞かれていた状況からは改善した。
- ・食事の内容については、「まあまあ不満・不満」を合わせて 3 名であり、食事の料金については 44 名が「普通」を回答。これにより、昼食料金値上げの余地が全くないということではないと判断し、750 円から 800 円となる。
- ・職員の接遇マナーに関しては、不満を感じているご利用者は 0 人。今までも多くの接遇・マナー研修を受講してきたが、今後も継続していく。

(3) 勉強会の実施

適切な研修を選定し、年 1 回/人を目標として、外部研修（WEB 研修含む）に参加し、習得した技術や知識を用いてフィードバックを実施しました。

4 月 福祉職員のストレスマネジメント講座

5 月 高齢者施設のリスクマネジメント

6 月 入浴介助研修

7 月 車いすシーティング講座

8 月 コミュニケーション・マナー講座

9 月 なし（各利用者の入浴動作と介助方法の見直しを実施）

10 月 おもてなし向上セミナー

11 月 高齢者の転倒予防報告、「身体拘束は廃止できます」具体的実践とその取組

12 月 なし（LIFE フィードバックデータの共有・総括を実施）

1 月 なし（各利用者の歩行動作と付き添い方法の見直しを実施）

2 月 なし（ご利用者・ご家族様アンケートの共有・総括を実施）

3 月 なし（次年度の事業計画及びフィードバックの進め方について検討会を実施）

(4) 職員教育制度（新人研修）

第1 デイサービスを協働で作成した「新人研修用マニュアル」をパワーポイントで編集し実用化しました。今後の新入職員に実施していきます。

3. 地域連携について

(1) 居宅介護支援事業所への訪問

毎月実施し、顔の見える関係を構築しています。新規事業所は4事業所開拓しました。

(2) 地域福祉活動への参加

①4/17（水）米津町サロン 健康診断（口腔・血管年齢）

②7/28（日）倉松町サロン 健康体操

③11/16（土）倉松町サロン 焼き芋づくり

④1/16（木）小沢渡サロン 健康体操

4. 苦情・事故・ヒヤリハットについて

【苦情】 0件

【事故報告】 13件

	項目	詳細	対策・対応
4月	介助ミス	機能訓練を行っていた職員が近くのイスに当たってしまい、イスが倒れ利用者の左第4趾に当たる。	看護師対応。外傷なし。押すと、軽度圧痛あり。家族へ連絡。本人は「大丈夫だよ。何ともない。」とのこと。その後、様子を見るが特に問題ない。機能訓練運動前には、周辺環境確認を実施し、不要な器具等は随時片づける。
	薬	入浴後の処置後に、外用薬を他利用者のカバンに入れてしまい、ご家族からの電話連絡にて発覚。	職員が訪問し謝罪。カバンの入れ違いというヒューマンエラー。内服薬は個人情報でもあるので、今後は十分に注意し実施していく。
5月	介助ミス	ホットパックの物理療法を実施する際に、シップの確認を失念し、そのまま実施。シップが貼ってあった部位が発赤。	看護師が皮膚状態を確認。大きな問題はない。今後は「シップの有無」の確認張り紙を作成し、ホットパック前にご利用者に確認を取ることとする。

7月	誤嚥	昼食中、食物がつまり、チアノーゼが見られる。	タッピングで改善。誤嚥性肺炎のリスクがあるので家族へ連絡。スプーンで食事していたが、一口が大きい ため、スプーンの大きさを小さいものに変更。また本人への指導も行う。
10月	転倒	入浴に誘うが「入りたくない」と拒否。しばらくして怒った様子で「帰る！」と出ていく。シルバーカーの使用を拒否したため、職員近位見守りで屋外まで付き添う。その際、マ ンホールに躓き転倒。左手より出血。	他職員がご家族を連れてきて、一緒に歩く。その後、職員が車で迎えに行き、ご家族ともに自宅へ送迎。ケア マネを含め話し合いをするが、はっきりした原因は不明。しかし、今後もシ ルバーカーの使用を勧めていく。
11月	転倒 【行政 報告】	自席前でバランスを崩し、隣の席の 肘掛けに左わき腹を打つ。左肋骨ひ び。	看護師による状態確認。目立った外 傷はないが、左肋骨部位の痛みの訴 え強く、家族に連絡し受診すること となる。今後は、体調不良時は車イス の使用を勧め、また歩行状態を評価 し機能訓練を実施していくこととな る。
	薬	15:40に15時に内服する予定の薬 を忘れてしまったことを発見。	家族へ連絡し「自宅では15~16時に 内服しているので、今内服すれば問 題ない。」とのこと。迅速に対応。今 後はタブレットを利用し、タイマー を定期的にセットしておく。
12月	薬	送迎時、臨時薬を家族から渡された ことを看護師に申し送り忘れ、また 看護師も通常薬以外の薬の確認を怠 り、結果、内服し忘れが起きた。	家族に連絡し謝罪。家族より「今日の 薬（漢方）は内服しなくてもよい。」 と言われる。今後は連絡ノートの確 認と内服薬袋の確認を徹底する。
	薬	新規利用者の来所持の内服薬確認を 失念し、昼食後カバンを確認するも、 内服薬ケースのみが見つかる。本人 に内服確認するも、覚えていない。	特に異常所見はなかったが、新規利 用者及びお試し利用者は、申し送り ノートを確認することを徹底する。 専用のファイルを作成することとする。
3月	薬	前回利用時に下剤（屯用）が見当た らないため内服しなかったが、次回 利用時に別の内服袋から下剤が見つ かる。	常用薬と屯用薬の袋の区別が分かり にくいため行った内服忘れの事故。 今後は分かりやすく、2種類の袋を 準備し、現在住んでいる老人ホーム とも情報共有する。

薬	内服薬自己管理してるご利用者の昼食後、下膳時に食直前薬（糖尿）が見つかる。本人より「飲み忘れた。」とのこと。食直後であり内服可能な時間であったため、迅速に対応。その後、同様の内服薬の袋が見つかり、本人が内服していたことが分かる。	低血糖のリスクに対応するためお菓子を食べる。家族へ連絡し謝罪。「自宅でもよくある。1錠だけ持たせればよかったのに、複数個入れてしまったため申し訳ない。」と話す。自己管理は難しくなってきたため、今後もデイ管理することで対応。
薬	内服薬自己管理しているご利用者が、一包化した昼食薬と夕食薬を間違えて内服したと自己申告あり。	内服情報により1錠違う薬を内服したため、状態観察を継続。特に異常なし。認知機能には問題なく、本人も初めて間違えた様子。「今後も自己管理していきたい。」との本人の意向を重視し、注意して頂くように指導する。
その他 【行政報告】	当該利用者がデイ終了時に他利用者と別れのハイタッチをしていたところ、「強くぶたれた。」と話し、心配だから受診するとのこと。	受診した結果特に問題なし。受診費用は損害保険にてお見舞金対応をする。その後、被害妄想も見られたため、ハイタッチをした利用者とは別に利用日に利用するように、ケアマネジャーと調整済。

【ヒアリハット】 19件

	項目	詳細	対策・対応
4月	介助ミス	収縮期血圧が68と低かったが、本人が「大丈夫」と話したため、自己判断で特に何も対応しなかった。	他の看護師を相談しベッドで移動。家族へ連絡し要観察とした。特に急変等なし。今後は一人の判断で対応しないこととする。
	誤飲のリスク	ご利用者がトイレに行き、職員と一緒に手洗いをする際にハンドソープを口に入れようとした。	口の回りに付着したハンドソープを洗い流し、誤飲には至らなかった。今後も同様に未然に防いでいく。
5月	誤嚥のリスク	トロミを付けたお茶を他利用者へ提供。	トロミを付けた職員がその場を離れ、別の職員が提供したためミスが起きた。今後は、トロミを付けた職員がそのまま提供することとした。
	介助ミス	本人持ちの薬を、他利用者のカバンに入れ、持ち帰ってしまう。	ご家族から連絡があり発覚。すぐに受取に伺い謝罪。その後、持ち主にお届けし謝罪。本人持ちの薬に名前シールを貼ることで対応。

6月	転倒	自席から立ち上がり、他利用者の車イスに足をかけ転倒。	看護師による状態確認。家族への報告。シルバーカーを利用しやすいように配置することとする。
7月	転倒	送迎時、玄関の段差で足が上がらず膝折れ。	シルバーカーをつかんで、後ろから抱えるようにして転倒防止。現在のADL状態を鑑み、二人送迎で対応することとなる。
	薬	内服後の空袋を他利用者のカバンに戻してしまう。	内服後の空袋にて服薬確認を行っていたため、両家族より連絡あり。すぐに謝罪し対応。
	介助ミス	車イスの乗車したご利用者を、玄関上がり框へ上げ、方向転換する際に片側車輪が上がり框から落ち、車イスが傾く。	すぐに車輪を上げ対応。今後は、真っすぐに上がり框を上がり、その後に方向転換するように指導。
8月	転倒	自席で立ち上がり、椅子がしっかりと下がっておらず、椅子の足にひっかけ転倒。	看護師による状態確認。外傷ないが、家族へ連絡。今後は立ち上がり、歩き出しの際は転倒のリスクが高いので見守るようにする。
9月	転倒	トイレで座り込んでいるところを発見。排泄後、トイレ内の洗面台で手を洗おうとして転倒したとのこと。	看護師による状態確認。外傷なし。歩行状態が不安定なため、移動時の見守り、また排泄後のナースコールの使用を本人へ指導。
10月	誤飲のリスク	来所持、うがい用紙コップにハンドソープを入れているところを発見。	当該利用者が手洗いするときは見守りを実施する。また、容器に「せっけん」と図りやすく表示し資格に訴えていく。
11月	その他	防災訓練に参加した際、屋外に出て顔面発赤出現。	看護師による状態観察後、本人が持参しているクリームを塗布。日光過敏症であるが、今後は職員から日焼け止め対策のグッズ等を使用する声掛けをしていく。
	転倒	送迎時、玄関にて靴箱に手をかけたが、靴箱ごと一緒に転倒してしまう。	家族も目の前にいたため、始終を把握している。外傷なし。本人は「大丈夫だよ」とのこと。今後は玄関上がり框を上がるまで送迎職員が見守るようにする。

1 2 月	介助ミ ス	水分にトロミが必要なご利用者に、 内服時トロミを付けずに渡してしま う。	家族へ連絡し謝罪。今後は、他利用者 も含め、トロミ使用者と使用量のプ レートを用意し、再発防止に努める。
	薬	送迎時、職員が家族より内服薬を受 け取り、無記名だったため、名前を 間違い他職員に手渡す。	内服前に新規利用者とお試し利用者 との名前を間違えたことが発覚し、 大事には至らなかったが、最も間違 えやすいため、専用ファイルを作る こととする。
2 月	転倒	排泄後、シルバーカーでお風呂に向 かっている最中に、膝折れし転倒。	看護師による状態確認。外傷、痛みな し。家族に報告。「自宅でもいつも膝 折れしています。」とのこと。当該利 用者について、歩行時近位見守りと する。
	転倒	入浴後、車イスに乗車した状態で、 身体を拭いており、前かがみになっ たときに、車イスが前に倒れ、額を 手すりにぶつけてしまう。	外傷確認。腫れや痛みの訴え無。原因 はフットレストに足を乗っていた 状態で身体を拭いていたことと思わ れる。今後は、フットレストから足を 下ろした状態で作業を行う。
	転倒	帰りの送迎時、車イスを待っている 間に「転倒した。」と本人より報告あ り。	外傷や痛みは特になし。歩行状態も 変わらず。当該利用者は歩行状態は 不安定になりつつあることから、今 後は近位見守りで歩行介助すること とする。
3 月	転倒	シルバーカー歩行介助時、両膝の力 が抜け、しゃがみ込むように、両膝 を床につく。	外傷なし。自宅でも膝折れが多い様 子。今後も同様に歩行時付き添いを 実施し、下肢筋力トレーニングの積 極的な参加を促していく。

令和6年度 指定居宅介護支援事業所南風 事業報告

1. 基本方針

例年の基本方針通り、地域の要介護者等やその家族が住み慣れた土地で安心して生活を送ることができるように適宜必要な支援を行ってきた事で、居宅介護支援の実績数は（表1）の通りとなりました。

居宅介護支援実績数（表1）＊要支援については、（ ）内が3人で1の換算での請求件数になっております。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要介護	234	239	234	229	226	225
要支援	85 (28.3)	84 (28)	85(28.3)	89(29.6)	87(29)	90(30)
合計	262	267	262.3	258.6	255	285

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護	221	230	233	226	226	228
要支援	89 (29.6)	89 (29.6)	85 (28.3)	87 (29)	83 (27.6)	84 (28)
合計	250.6	259.6	261.3	255	253.6	256

新規利用者の受け入れについては、職員の入れ替わりがあり、終了者分の受け入れしかできず、新規の受け入れの制限をかけていました。

介護請求については、230件前後で留まっている状況でした。

2. 組織体制

・4月に包括職員との入れ替えがあったが、常勤8.6名でスタートし、5月にパート職員1名退職。7.8名の体制となりました。

主任介護支援専門員の受講を1名し、3名の主任介護支援専門員の体制となりました。

新規の受け入れの制限もあったため、デイサービス、ショートステイの紹介率については、上がってきたり、減ったりを繰り返し大きな増加には至っていませんでした。

その中でも、初回訪問の2人体制は継続できています。

また、契約時にはほなみのパンフレットを持参したり、人生会議手帳の配布も試みました。

3. 研修など

・各研修は、リモートと集合形式での研修となり、顔の見える関係作りができるようになってきました。今後も各行政区の研修への参加を継続していきます。

・他事業所との事例検討会については、浜松市連絡協議会南区支部の研修で実施しました。

・職員の更新研修は1名参加し、主任介護支援専門員研修は1名参加しました。

4. 地域交流、貢献活動等

- ・バザールの再開も出来ました。以前出店されていた方のお店が閉店されていたりと、出店探しに苦慮しました。それでも、近隣の方やバザール出店の方の協力で、出店数も増えてきております。

元気で過ごそう会・喫茶ボランティアも継続できました。

また、他地域の包括より人生会議手帳の説明ともしばなゲームの開催協力の依頼があり、参加させていただきました。

5. その他

- ・主任介護支援専門員3名を有する大規模事業所の責務をして、行政や地域包括支援センター、介護支援専門員連絡協議会南行政区支部等各組織と連携し、地域福祉の向上に努められるよう研修協力などの実施を継続しました。
- ・地域包括支援センターとの連携も強化し、特定事業所加算を取得している居宅介護支援事業所として、困難ケースの受け入れも行なってきました。また、主任介護支援専門員が中心となって受け入れているため、居宅内の会議で関わり方や多職種との連携を伝えるようにしました。また、地域ケア会議などの開催時には、参加できる職員が同行するようにしました。
- ・月に1回居宅会議の中で、事例検討会やアセスメントの振り返りを行ない、自分だったらと一人一人が意見を言えるようになり、適切なケアマネジメント手法のどこを中心に考えるとさらに深まるかの意見も出せるようになったと思います。
- ・年に1回職員の面接を実施し、居宅内の問題点などを聞き、会議の中で改善策を全員で一緒に考えることは引き続き行なってきました。ライフワークバランスが取れるような体制づくりは引き続き行なっていきます。

①担当圏域の概要 (R5.10.1時点)

地区名	年齢構成				高齢者の内訳			要介護高齢者		
	人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	高齢化率	前期高齢者	後期高齢者	事業対象者	要支援	要介護者
飯田地区	12,485人	1,448人	7,773人	3,264人	26.1%	1,513人	1,751人			
白脇地区	21,938人	2,911人	13,350人	5,677人	25.9%	2,623人	3,054人			
	34,423人	4,359人	21,123人	8,941人	26.0%	4,136人	4,805人	96人	415人	1,135人

＜圏域の特徴＞

浜松市の高齢化率は、令和5年10月現在で28.6%であり、地域包括支援センター三和(以下、当センター)の担当圏域である飯田・白脇地区の高齢化率は26.0%である。昨年と比較すると、浜松市全体と飯田・白脇地区とも0.3%の上昇となっている。圏域の特徴として、高齢化率が20%前後の町がある一方で、高齢化率が40%近い町があり、白脇地区では国道1号線の南北、飯田地区では国道1号線の東西で大別することができる。生産年齢人口(15歳～64歳)が多い町の周辺には、スーパー等の商業施設が充実しており、食料品や生活用品等の生活必需品の購入に困ることは少ない。一方で、生産年齢人口が少ない町の周辺には、商業施設が少なく、個人商店等の廃業により、食料品や日用品の確保が課題となっており、食料品については移動販売の利用者が増えている。日用品については、親族や知人等の力を借りているものが多い。

介護保険サービスでは、多くのサービスにおいて、圏域住民のニーズに応えるだけの事業所とサービス量が充足しているといえるが、介護人材の不足と多様化するニーズを背景に、訪問介護の調整が難航することがある。そして、それらを調整するケアマネジャーの不足は顕著であり、以前から要支援者を担当するケアマネジャーの選定が難航していたが、要介護者においても時間を要するようになってきている。

また、介護保険サービスの対象とならない高齢者が利用できるサービスや仕組みが成熟しておらず、運営主体の規模や実績に差異があり、誰しもがわかりやすく、安心して利用できるサービスになり得ていない。多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を目的とした、生活支援体制づくり協議体の活動では、飯田地区において家事支援について熟議を繰り返しているものの、具体的な活動に至っていない。

地域力としては、団体による差異はあるものの、地域の関係づくりや居場所づくりを目的に、サロンやシニアクラブ等が活発に行われている。また、民生委員においては令和4年度の改選により3割程度が入れ替わったが、新たに就任した民生委員と当センターが連携する事例が増えている。

＜把握している地域課題＞

- ・飯田地区では地域での家事支援の仕組みが構築されておらず、ごみ出しなどの局所的なニーズに対して支援の選択肢が少ない。インフォーマルなサービスとして、地域に則した家事支援の創出が必要となっている。
- ・公共交通機関の利便性の悪さから、通院や買物、地域活動に参加できない高齢者がいる。それらの社会参加を推進するインフォーマルな仕組みの創出が必要となっている。
- ・介護サービスを利用したい高齢者に対応できるケアマネジャーが不足しており、以前からも介護予防支援においてケアマネジャーの選定が難航していたが、要介護においても時間を要するようになっている。ケアマネジャー調整難航時には、迅速なサービス利用に至らないことがある。

②重点目標

- ・重層的支援体制整備事業について理解を深め、多くの職種や機関との連携強化を図る。
- ・安心して暮らせる地域を目指し、生活支援体制づくり協議体の活動及び地域ケア会議を活用して、社会資源の周知・創出を目指す。
- ・アウトリーチ活動として、地区社協や地区住民児協、サロンやシニアクラブ等の地域団体に積極的なアプローチを行う。また、それら諸団体と地域の介護支援専門員を繋ぐ活動を実施する。
- ・サロンやシニアクラブ等の地域団体のほか、教育機関や企業において、認知症施策の推進や介護予防の重要性について啓発を行う。
- ・団塊の世代が後期高齢者となる現状を鑑みて、『75歳全戸訪問』に注力し、当センターの周知を行う。
- ・対象者が『若いへの備え』を意識化できるように、専門講師等の協力を得ながら、家族介護支援事業等を開催する。特に、認知症の方やその家族が集える家族会等の開催に注力する。
- ・ニュースレターの定期発行及び家族介護支援事業の周知活動を通じて、医療機関や金融機関、商業施設等との関係づくりを行う。

④実施計画（活動内容）

業務名	実施計画	実施計画に対する達成状況
総合相談支援	<p>① 「75歳全戸訪問」や出張相談所「ちよこつと相談（1か所）」「いきがいが相談（1か所）」の継続実施。また、地域の店舗（金融機関・スーパー等）と調整し、新たな出張相談所を開設する。</p> <p>② 「断らない総合相談窓口」「適切に繋ぐ相談窓口」を目指し、多くの職種や機関との連携強化をする。方法として、「みなみクラブ」等において、それらとの連携促進を図る。</p> <p>③ 地区社協や地区民協との顔の見える関係構築を促進し、また、サロンやシニアクラブ等の地域の各団体及び医療機関や介護サービス事業者からの協力依頼に柔軟な対応をすることで関係性をつくり、地域に根付いた総合相談を行う。</p> <p>④ ホームページ、ブログの更新頻度を維持し、介護者世代への周知を図る。</p> <p>⑤ タブレットを活用し、画像や動画などを用いて、わかりやすく、想像がしやすい、情報提供をする。</p> <p>※①②③④⑤を行うことで地域への周知活動や啓</p>	<p>① 「75歳全戸訪問」を目標に掲げ、多く対象者宅に訪問ができた。しかし、目標としていた全戸に至らず、不在宅も多かった。次年度は、対象者の年齢や地域の選定の検討を行う。また、「ちよこつと相談（1か所）」を「いきがいが相談（2か月に1回）」行った。スーパーでは、アルツハイマー月間の活動としてブースを設置し簡易相談を実施した。</p> <p>② 「みなみクラブ」は、南エリア地域包括支援センター（新津・芳川）と合同開催にて、集合形式で9回開催し、多機関多職種との連携を図った。ケアマネジャーの参加が減少しており、開催方法や周知方法が課題となった。</p> <p>③ 地区社協や地区民協の定例会に参加し、包括業務の事例報告を通じて関係構築を行った。シニアクラブやサロン等の地域団体への協力は29件行った。</p> <p>④ 介護者世代や地域住民等への周知を目的に、ブログの更新を計17回実施した。また、ブログに限らず、SNSの活用について検討を行</p>

<p>発活動を行うとともに、ネットワークを構築し潜在ニーズの早期発見・早期対応を目指す。</p> <p>⑥ 毎日の始業時に業務の進捗状況の確認と情報の共有化を行うとともに、センター内ミーティングを月2回実施し、事業計画の進捗状況の確認、企画立案等を協働で行い、チーム力向上を目指す</p> <p>⑦ 初回面接や初回訪問は複数の職員で対応し、より良い初動対応を行う。</p> <p>⑧ 遠方の家族などに対しては、ZoomやメールなどICTを活用した相談を行う。</p>	<p>⑤ タブレットやPC、プロジェクトを用いてわかりやすく、想像がしやすい、情報提供を行った。</p> <p>⑥ 月2回のミーティングを定期開催し、予定の確認や活動の進捗状況の報告、研修報告、事業計画の立案等を協働で行った。また、毎日の朝礼等で情報共有を行い、支援が停滞することが無いように配慮した。</p> <p>⑦ 初回相談は、職員2名で対応し、複数の視点から支援方法を検討した。</p> <p>⑧ テレビ電話を利用しての相談対応が1件あった。また、遠方に在住する親族等とのメールでのやりとりは増加している。</p>
<p>① 初回面接は複数の職員で対応するとともに、行政等の複数機関で支援を行い、適切な支援を目指す。</p> <p>② 権利擁護の中核機関と連携する。また、専門機関に依頼ができないケースについて、年2件程度を目標とし、直接支援を行う。</p> <p>③ 社会福祉協議会と連携をし、日常生活自立支援事業の情報提供、利用の支援を行う。</p> <p>④ 虐待防止マニュアルに沿って、関係機関と連携して適切に対応する。</p> <p>⑤ ケースの内容に応じて、成年後見制度や身元保証を取り扱う団体等と連携する。</p> <p>⑥ 成年後見制度や詐欺等消費者被害等の周知を、家族介護支援事業の開催やシニアクラブ・サロン活動への協力を通して啓発活動を行う。</p> <p>⑦ 南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）と協働で、社会福祉士が主体となり、権利擁護の研修会を開催する。</p> <p>⑧ 介護サービス事業所等において、権利擁護に関</p>	<p>① 職員2名で対応し誤謬を防ぐとともに、成年後見制度の申立てについては、行政や弁護士事務所、司法書士事務所等と協力して支援を行うことができた。</p> <p>② 成年後見制度の直接支援件数は2件。権利擁護センターと相談して対応した。</p> <p>③ 日常生活自立支援事業の利用開始ケース2件。社会福祉協議会と連携して情報提供をした。</p> <p>④ 通報があった場合は、センター内で情報整理・アセスメントを実施した上で、行政や関係機関と連携して適切に対応した。</p> <p>⑤ ケースの内容に応じて、浜松成年後見センター等の団体と連携をした。</p> <p>⑥ 成年後見制度や詐欺等消費者被害の周知は、シニアクラブやサロン活動等を通じて3回実施した。</p> <p>⑦ 南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）、聖隷クリストファー大学野田教授を講</p>

権利擁護

	<p>わる研修を担当する。</p>	<p>師に招き、「虐待」について研修会を開催した。</p> <p>⑧ 居宅介護支援事業において、権利擁護に関する研修を担当した。</p>
<p>包括的・継続的ケアマネジメント支援</p>	<p>① ケアマネ情報交換会「(仮) 完熟&フレッシュ三和クラブ」を定期開催し、運営においては地域の主任介護支援専門員に協力を得る。</p> <p>② 地区社協や地区民協、サロンやシニアクラブ等の活動に、地域の介護支援専門員と参加する。</p> <p>③ 南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）と地域の介護支援専門員が協働で、「社会資源リスト」の維持管理の活動を定期的実施する。</p> <p>④ 演習・研修について、主任介護支援専門員と協働で企画・準備・開催を目指し、そのコーディネートを行う。</p>	<p>① 「フレッシュ三和クラブ」を集合形式にて6回開催した。ケアマネジャー業務の悩みのほか、在宅連携センターや共生型デザインサービスの職員を講師に招き、知識の習得を行った。</p> <p>② 10月に飯田地区民児協と飯田地区で活動するケアマネジャーと合同研修会を開催した。</p> <p>③ 南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）及び地域のケアマネジャーと協働で「社会資源リスト」の維持管理を行った。</p> <p>④ 南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）と協働で、「ヤングケアラー」「身寄りなし」「ハラズメント」「被災時対応」をテーマにして、演習・研修を実施した。また、浜松市介護支援専門員連絡協議会南支部主催の「事例検討会」の開催に協力した。</p>
<p>介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)</p>	<p>① より適切なアセスメントを実施するため初回面接や初回訪問は複数の職員で対応する。</p> <p>② 対象者自らがサービスの選択をできるように、心身の状況に応じたサービスの複数提示する。</p> <p>③ 指定介護予防支援事業のプランを含め、職員1人当たり20件以下とする。</p>	<p>① 初回相談は、職員2名で対応し、複数の視点から支援方法を検討して、対応した。</p> <p>② 対象者の希望等を確認し、複数の職員で支援方法を検討し、対象者が選択できるように、支援に必要なサービスを複数提示した。</p> <p>③ 職員ひとりあたり、平均9.3件（介護予防支援・ケアマネジメントA）を担当した。</p>
<p>在宅医療・介護連携推進</p>	<p>① 浜松市医師会との合同研修会は、南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）と浜松市介護支援専門員連絡協議会南支部が協働で開催する。</p> <p>② 歯科医師会との合同研修会は、南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）と行政担当課が協働で開催する。</p>	<p>① 浜松市医師会主催の研修『災害時における医療と介護の連携』の開催について、南エリア地域包括支援センター（新津、芳川）と浜松市介護支援専門員連絡協議会と協働して行った。</p> <p>② 未実施。</p> <p>③ みなみクラブは、南エリア地域包括支援センター</p>

	<p>③ 多職種連携情報交換会「みなみクラブ」は、新規参加者が増えるように呼びかけの対象を拡大し、より多くの機関との顔の見える連携づくりを目指す。</p> <p>④ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）をテーマとして、家族介護支援事業や講話活動を行う。また、専門職に対して、研修会等を開催する。</p>	<p>ター（新津・芳川）と合同開催にて、集合形式にて9回開催し、多機関多職種との連携を図った。</p> <p>④ ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を含めた家族介護支援事業は実施できず、地域のシニアクラブ等にて、「もしバナゲーム」を活用して、参加者の理解を深めた。</p>
<p>生活支援・介護予防事業推進のための基盤整備</p>	<p>① 地域ケア会議（圏域）を開催し、飯田地区協会の家事支援の具現化に助力する。</p> <p>② 介護支援専門員等の地域で活動する専門職を協議体に繋げる。</p> <p>③ 「さらきらくらぶ」「さんさんクラブ」は、活動の継続と参加者による主体的な運営がされるように後方支援をする。</p> <p>④ ロコモ指導員やいきいきトレナーの資格を活かし、地域の各サロンの出張教室を開催する。</p> <p>⑤ ロコモレ普及員交流会を開催し、ロコモレグループの質の向上を図る。</p> <p>⑥ 地域のサロン活動等に付属していないロコモレサロンへ出向き、交流を深めるとともに、適宜指導等行う。</p>	<p>① 地区社協役員の変更や生活支援体制づくり協議体の協議テーマの変更があり、家事支援を具現化することができなかった。</p> <p>② 協議テーマの変更により、地域で活動する専門職を協議体に繋げる機会がなかった。</p> <p>③ 「さらきらくらぶ」「さんさんクラブ」は、代表者の変更があったが、活動が滞らないよう、後方支援をした。また、「深層筋体操クラブ」には、定例会やトレナーとして、サロン等に参加をして活動支援をした。</p> <p>④ 地域のシニアクラブやサロン等において、「健康講座＋体操等」をテーマに活動した。また、市からの専門職の派遣や地域の訪問看護ステーションの協力を得て活動をした。</p> <p>⑤ ロコモレサロンの新規団体は2か所。南エリア地域包括支援センター合同で、継続団体普及員養成講座」を開催できた。</p> <p>⑥ 依頼に基づいて指導にいった。</p>
<p>認知症施策の推進</p>	<p>① 認知症サポーター養成講座は、小中学校や一般企業、地域のサロン等へ呼びかけを行い、企画分と依頼分併せて、年3回の実施を目指す。</p> <p>※ はままつあんしんネットワークを対象とした認知症サポーター養成講座開催する。</p> <p>② 認知症初期集中支援チームの活用目標を年3件</p>	<p>① 認知症サポーター養成講座は計3回実施（企画2件）。キャラバンメイトとの合同開催の他、浜松市立白脇小学校4年生を対象に実施した。</p> <p>② 活用実績2件。</p> <p>③ 家族介護者交流事業として、オレンジシール</p>

	<p>とする。</p> <p>③ 地域の介護支援専門員や信用金庫等の協力を得て、オレジンシールを利用している本人やその家族の交流会を開催する。年2回目。</p> <p>④ オレジンシール登録者の現況確認を年2回の頻度で行う。</p>	<p>利用者やその家族等を対象とした交流会を計2回実施した。運営には地域の介護支援専門員の協力を得た。</p> <p>④ 現況確認を半年に1回の頻度で実施(新規登録者は初回は3か月後)。</p> <p>※その他 白脇まつりで啓発掲示物の展示を行った。また、アルツハイマーデーの活動で、マックスバリュールー飯田店にて啓発活動を実施した。</p>
<p>地域見守り支援</p>	<p>① 見守りネットワークを対象に認知症サポーター養成講座を行い、認知症に関する理解促進を図る。</p> <p>② 認知症ひとり歩き模擬訓練事業に協力し、ひとり歩き高齢者への声掛け訓練を行い、地域への啓発活動とする。</p> <p>③ 圏域小中学校(白脇小学校、飯田小学校、東部中学校)にて、認知症や地域の見守りについて講座を行えるように、小中学校と調整する。</p>	<p>① キャラバンメイトの協力を得て、福祉用具貸与会社や医薬品販売業者を対象に実施した。</p> <p>② 地域包括支援センター芳川が主担当をした認知症ひとり歩き(徘徊)模擬訓練事業に協力した。</p> <p>③ 浜松市立白脇小学校4年生を対象に認知症サポーター養成講座を実施できたが、学校との調整がすすまず、新規に実施することができなかった。</p>
<p>地域ケア会議(多職種協働による地域包括支援ネットワーク)</p>	<p>① 多職種連携情報交換会「みなみクラブ」を継続し、今後も連携強化を図る。 ※参加者の意見を聞き取り、年間予定を作成する。</p> <p>② 個別ケース地域ケア会議を繰り返し行い、共通する課題を見出し、研修等につなげていく。</p> <p>③ 地域ケア会議(圏域)を開催し、飯田地区社協の家事支援の具現化に助力する。</p> <p>④ 『ネットワーク会議』を継続開催し、各機関との連携の強化を目指す。</p> <p>⑤ 民児協(高齢者部会)の研修会に、地域の介護支援専門員等に参加を促し、ともに研修会を運営する。</p>	<p>① 「みなみクラブ」は、南エリア地域包括支援センター(新津・芳川)と合同開催にて、集合形式で9回開催し、多機関多職種との連携を図った。ケアマネジャーの参加が減少しており、開催方法や周知方法が課題となった。</p> <p>② ケア会議4件実施。</p> <p>③ ④個別ケア会議2件。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合的な課題を抱える世帯の支援について ・精神疾患の疑いがある親族の対応について <p>○圏域ケア会議2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の移動支援について(白脇地区・新津地区合同) ・地域で支えあう高齢者の生活支援について

		<p>(白脇地区・新津地区合同)</p> <p>③ 未実施。</p> <p>④ 「みなみネットワーク会議」が2回開催され、参加をした。</p> <p>⑤ 高齢部会ではなく、飯田地区民児協において、地域の介護支援専門員の協力を得て研究会を開催した。</p>
<p>指定介護予防支援</p>	<p>① より適切なアセスメントを実施するため、初回面接や初回訪問は複数の職員で対応する。</p> <p>② 対象者自らサービスの選択をできるように、心身の状況に応じたサービスの複数提示する。</p> <p>③ 指定介護予防支援事業のプランを含め、職員1人当たり20件以下とする。</p>	<p>① 初回相談は、職員2名で対応し、複数の視点から支援方法を検討して、対応をした。</p> <p>② 対象者の希望等を確認し、複数の職員で支援方法を検討し、対象者が選択できるように、支援に必要なサービスを複数提示した。</p> <p>③ 職員ひとりあたり、平均9.3件(介護予防支援・ケアマネジメントA)を担当した</p>
<p>その他</p>	<p>① センター内ミーティング等で業務内容の評価を行い、改善案に取り組み、評価を行い、定着を図る。</p> <p>② 社会福祉士養成課程(聖隷クリストファー大学・静岡福祉大学等)、在宅看護実習(浜松市立専門学校等)の実習生を受け入れる。</p> <p>③ 総合相談から圏域内におけるヤングケアラーやダブルケアの実態を把握し、「みなみクラブ」や研修会を通じて、多職種連携で支援方法を考える。</p>	<p>① 月2回のミーティングにて業務内容の評価及びヒヤリハットの振り返りを行い、業務改善に努めた。</p> <p>② ※ 苦情件数0件 社会福祉士養成課程(聖隷クリストファー大学1名・静岡福祉大学2名)、在宅看護実習(浜松市立専門学校1年生4名、3年生7名)の実習生を受け入れた。</p> <p>③ 「ヤングケアラー」をケアマネジャー演習事業のテーマとして、多職種連携で支援方法を検討した。</p> <p>※その他 ◎令和6年度職員の異動及び入退職 ・令和6年4月1日付で、居宅支援事業所南風から地域包括支援センター三和の異動1名。地域包括支援センター三和から居宅介護支援事業所南風への異動1名。入退職なし。</p>

事業報告の附属明細書

令和 6 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細は作成しない。

社会福祉法人ほなみ会